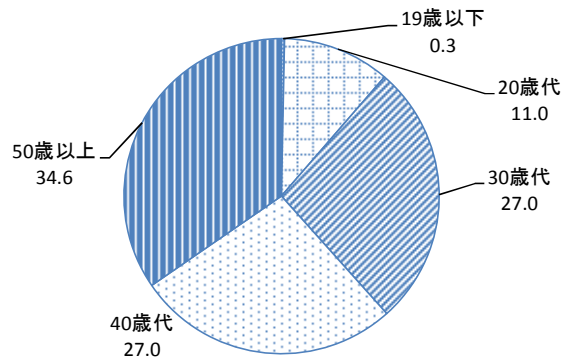


第3章 調査結果【女性社員向けアンケート】

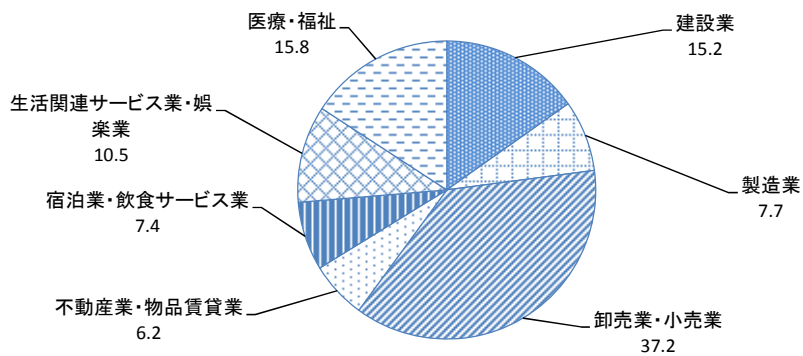
1 記入者情報

(1) 年代



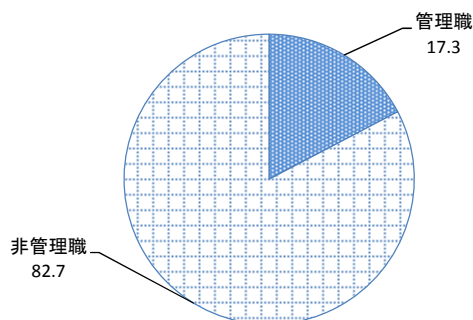
n=318

(2) 業種



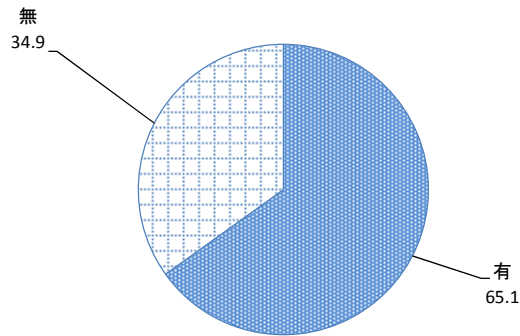
n=323

(3) 管理職別



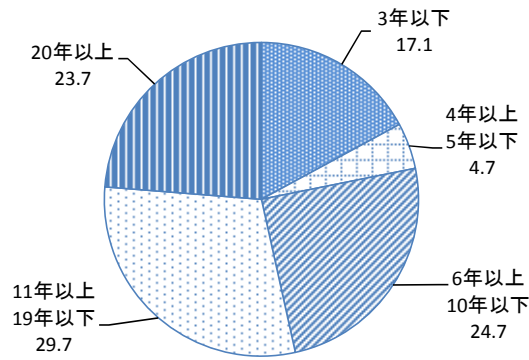
n=306

(4) 配偶者



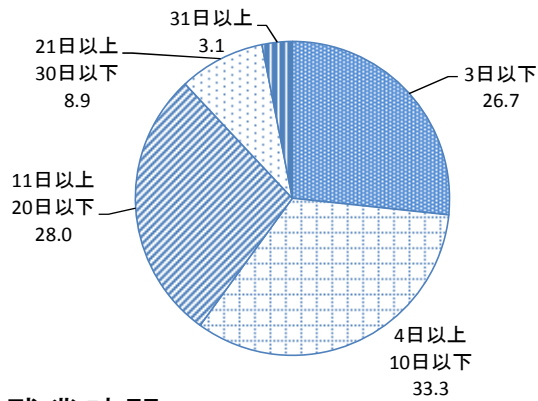
n=318

(5) 勤続年数



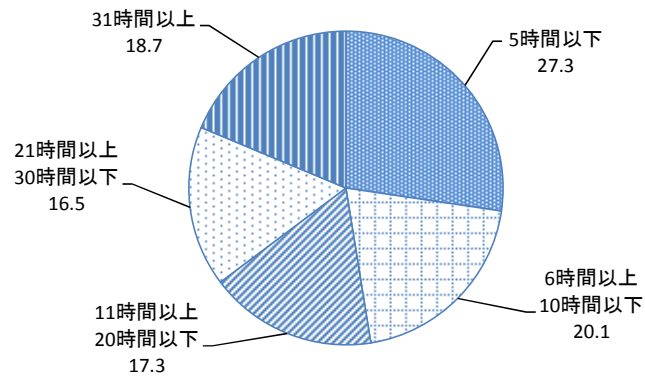
n=316

(6) 有給休暇取得日数



n=225

(7) 1カ月の平均残業時間

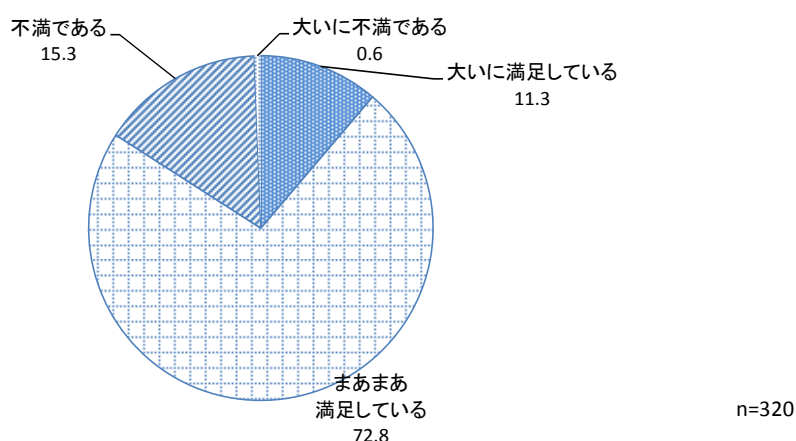


n=139

2 女性の働き方に関する満足度

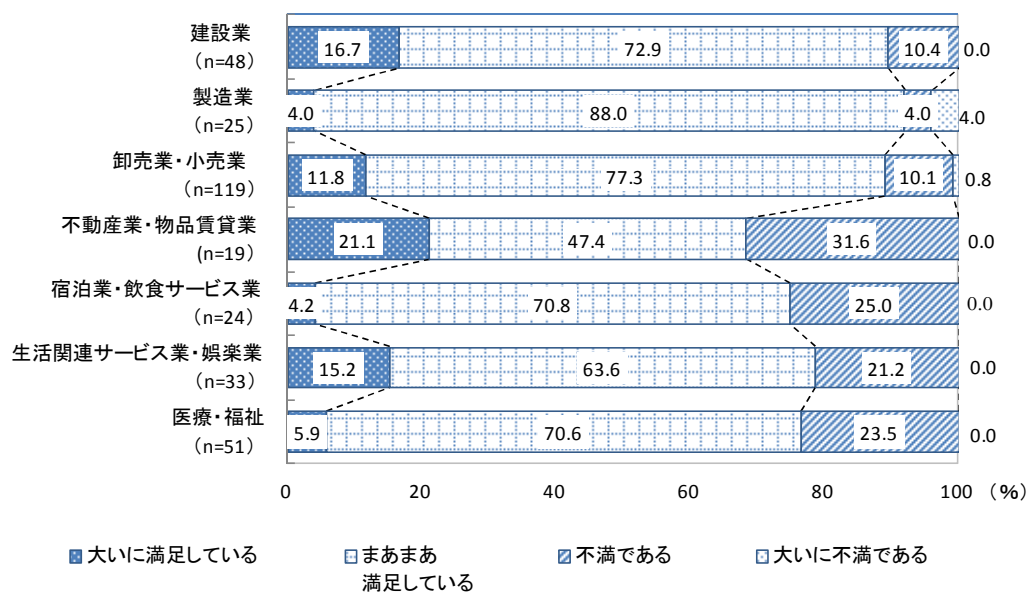
問1 あなたは今の会社での働き方に満足していますか。最も近いもの1つに○を付けてください。

女性社員の働き方に対する満足度に関して、「大いに満足している」が11.3%（36件）、「まあまあ満足している」が72.8%（233件）、「不満である」が15.3%（49件）、「大いに不満である」が0.6%（2件）であった。



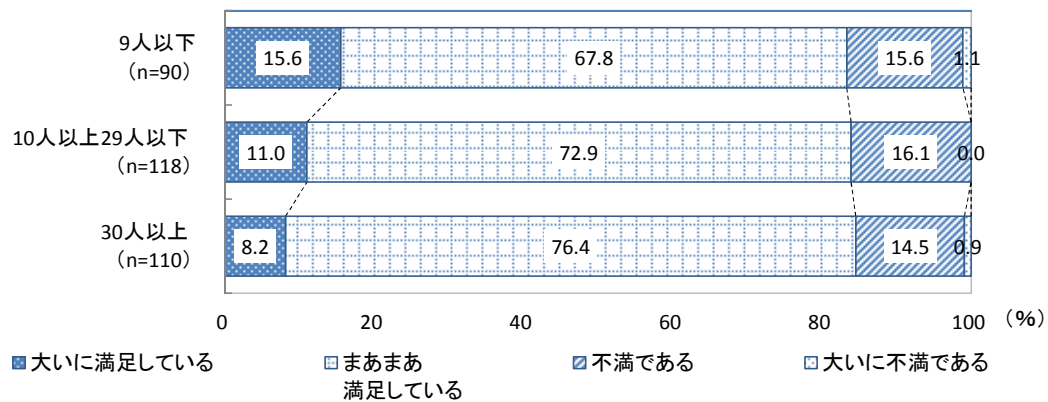
【業種別】

女性社員の働き方に対する満足度に関して業種別にみると、全ての業種で「まあまあ満足している」が最も多く、＜生活関連サービス業・娯楽業＞以外の6業種では7割を超え、＜製造業＞では8割を上回った。



【正規社員数別】

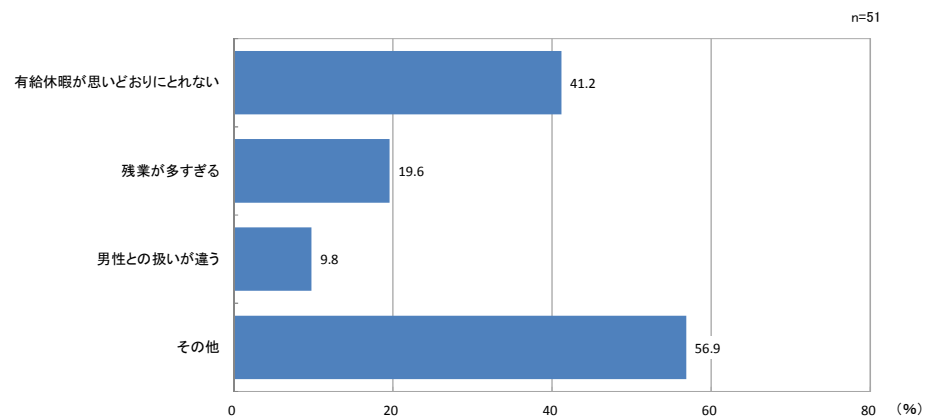
女性社員の働き方に対する満足度に関して正規社員数別にみると、全ての規模区分で「まあまあ満足している」が最も多く、正規社員数規模が大きくなるほどその割合が高い。



「不満である・大いに不満である」と答えた方にお聞きます

問 1-1 何が不満ですか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

女性の働き方に対する不満に関しては、「有給休暇が思いどおりにとれない」が最多で 41.2%(21 件)であった。



【その他の内容の具体例】 全25件

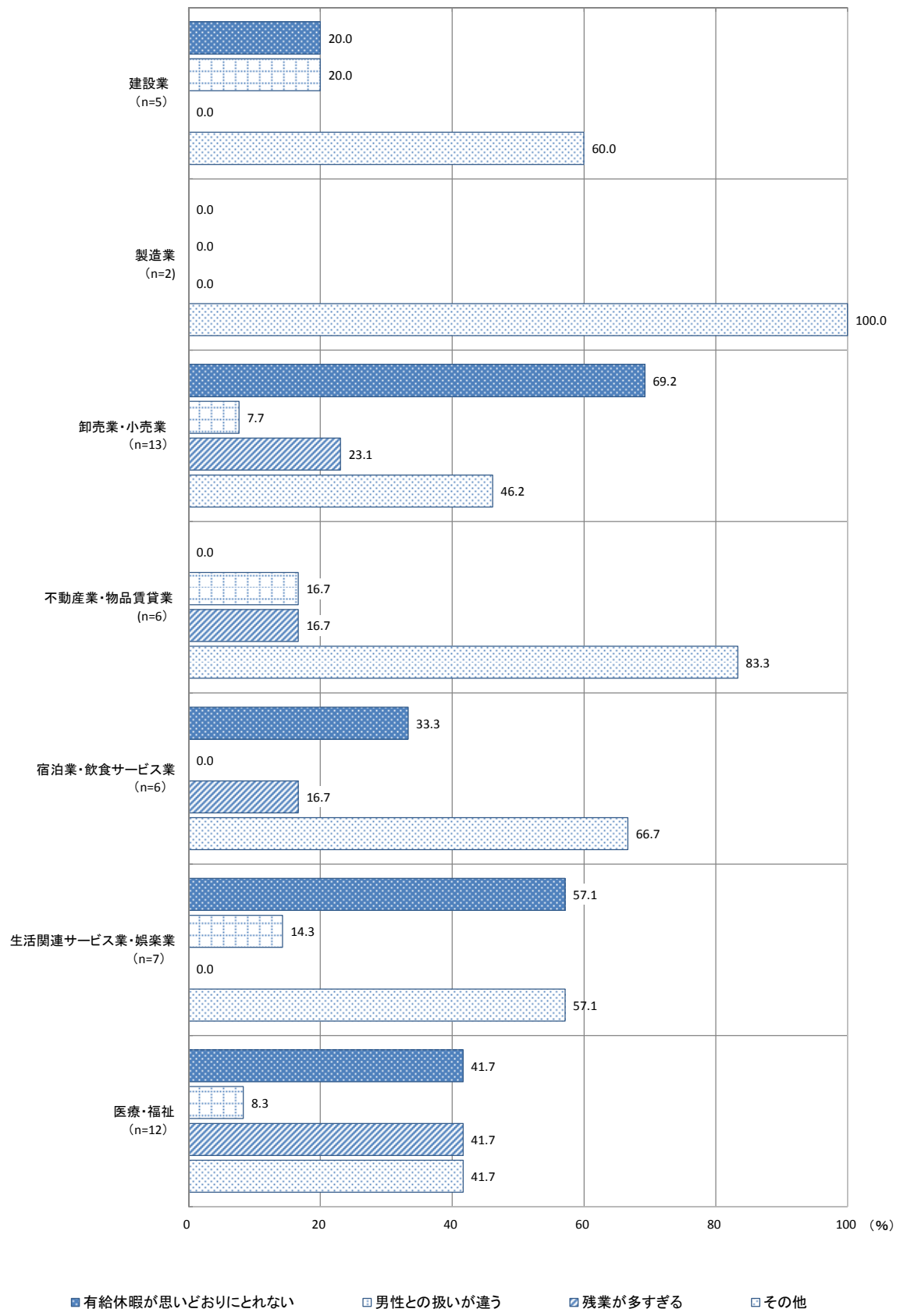
- 有給自体がない。休んだら欠勤である
- 社員教育の一環とはいえ家での作業があるため
- 休み希望が出せない
- ボーナスが無い（利益が十分出ていない為）
- 残業がつかない
- 本来希望の仕事内容ができていない
- 書き物が多すぎる。勤務時間内での仕事が全くできない
- 給与が上がらない

- 残業は仕方ないが、勤務時間は安定（1日8時間）するようシフトを作ってほしい。社員の勤務時間を安定させてほしい。人が足りない時は1ヶ月20～30時間の残業。足りている時は勤務時間を減らされてその時の給料の差が最大6万円だった。1日8時間として計算してあるのに対して20時間足りない。（減額）結婚してから更に時間が少なくなった。
- 仕事が多忙なのにボーナスがない
- 暇
- ワンマン社長の公私混同が激しい
- それぞれの従業員の仕事に対する意識のなさ
- 他部署の上司が残業、業務等に色々口出しする。給料（昇給が全くない）。休日を増して給料をカットする
- 土曜日休日が月に1回しかない
- 時間給が高くなれば本当はいい
- 仕事量、責任と給料のバランス
- やりたい仕事に従事できない
- 賃金
- ほぼサービス残業で仕事をしている。入社以来有給休暇を1日も取れない
- 勤続年数が長いが、正社員になれるかどうか分からないから
- 仕事量が多く残業しないと終わらない。給料に見合わない
- 休みたい時に休めない
- 7：20～18：00の仕事だから完全週休二日がよい
- 仕事量が多い。残業申請が認められずサービス残業となることがある

※ニュアンスがそれぞれ違うため、集約せず原本通りのまま記載しております。

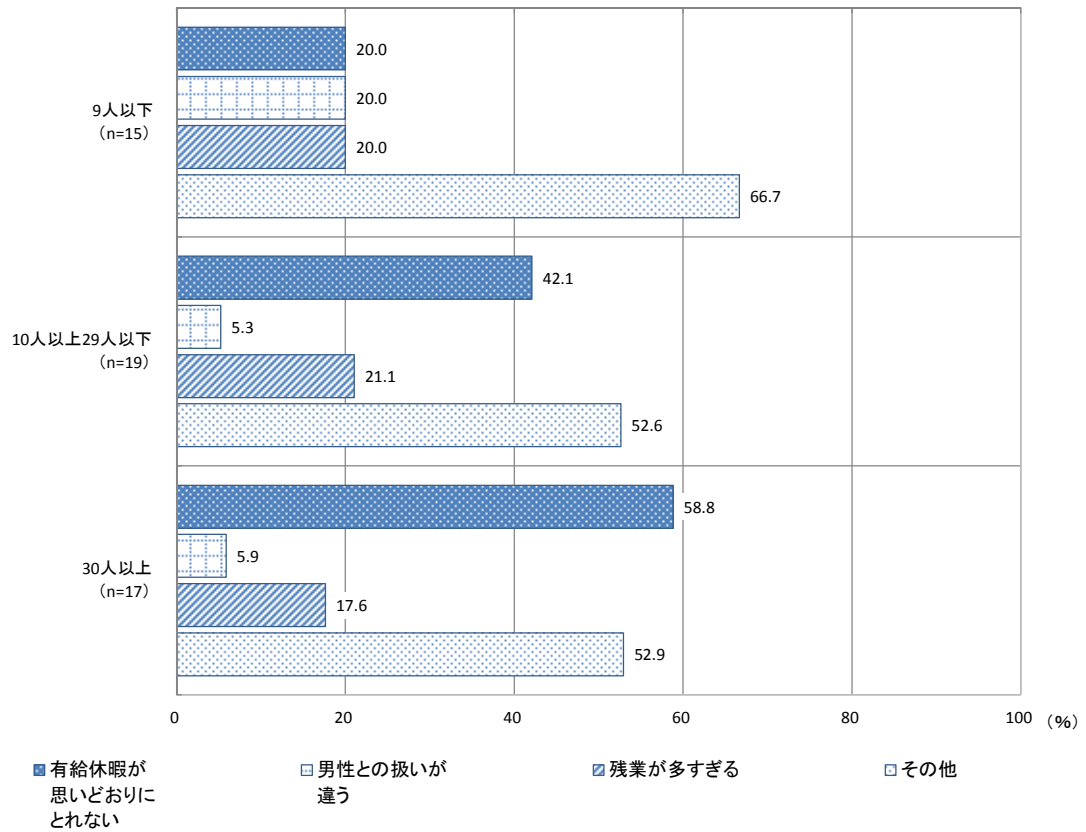
【業種別】

女性の働き方に対する不満に関して業種別にみると、＜製造業＞＜不動産業・物品賃貸業＞を除く5業種で「有給休暇が思いどおりにとれない」が最も多い。＜建設業＞では同率で「男性との扱いが違う」、＜医療・福祉＞では「残業が多すぎる」があった。（「その他」を除く）



【正規社員数別】

女性の働き方に対する不満に関して正規社員数別にみると、「有給休暇が思いどおりにとれない」が全ての項目で最も多いが、その割合は正規社員数が増えるほど高くなる傾向にある。＜9人以下＞では「男性との扱いが違う」「残業が多すぎる」も同率で最多であった。（「その他」を除く）

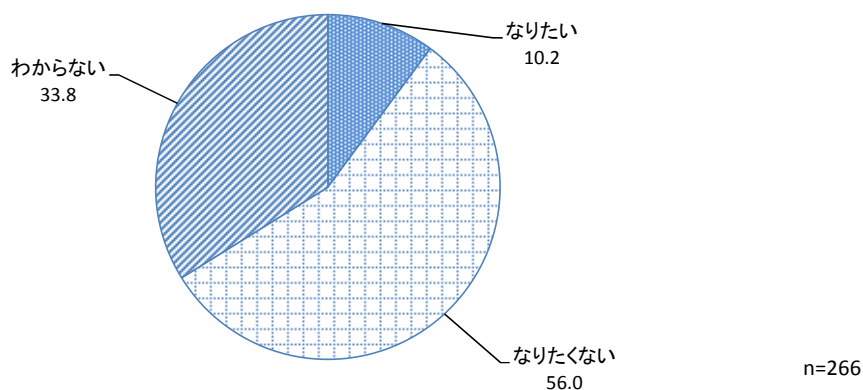


3 女性管理職について

問2 あなたは管理職になりたいですか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

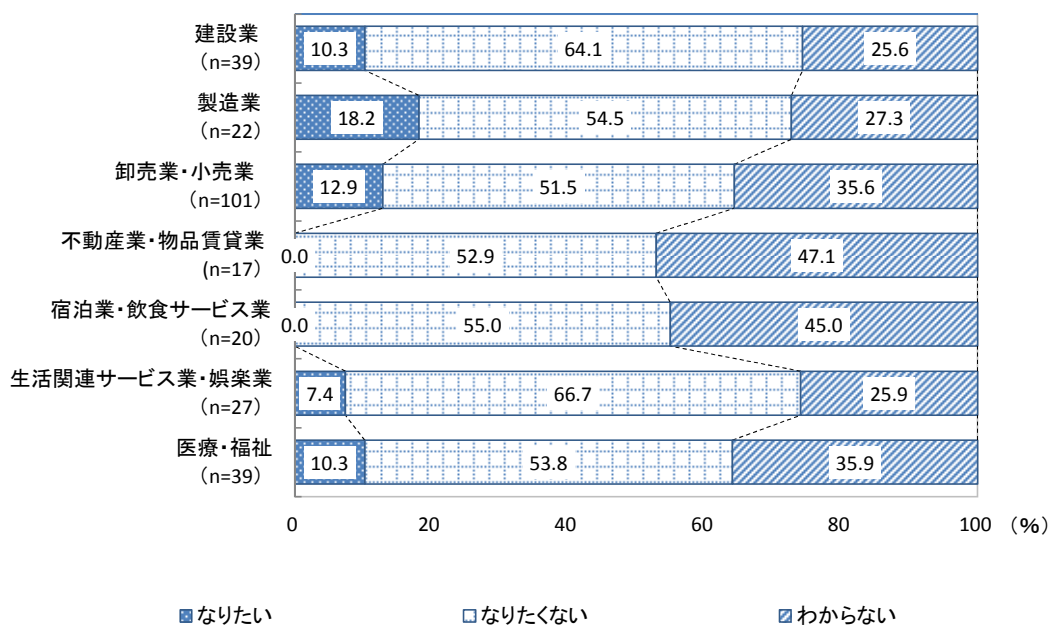
※非管理職の方のみ回答してください。

管理職への昇格希望に関して、「なりたくない」が最多で 56.0%(149 件)、「わからない」が 33.8%(90 件)、「なりたい」が 10.2%(27 件)であった。



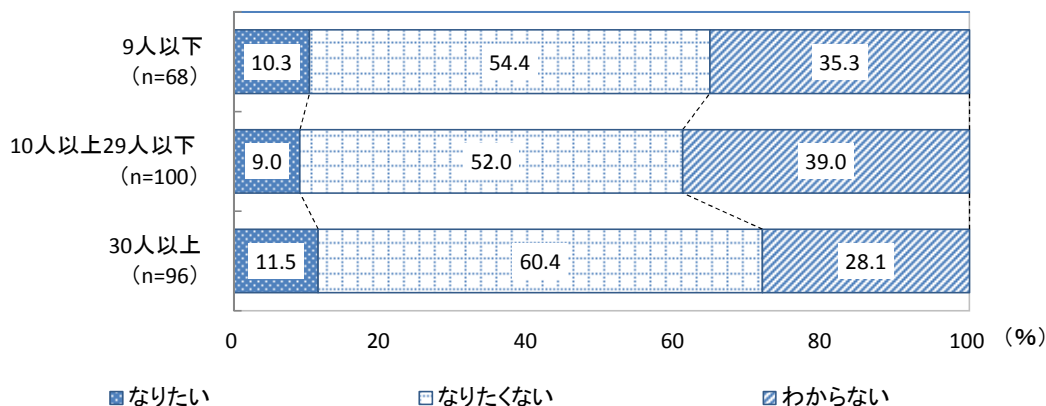
【業種別】

管理職への昇格希望に関して業種別にみると、全ての業種で「なりたくない」が最多で5割を超えた。＜建設業＞＜製造業＞＜卸売業・小売業＞＜医療・福祉＞では「なりたい」との回答も1割以上あった。



【正規社員数別】

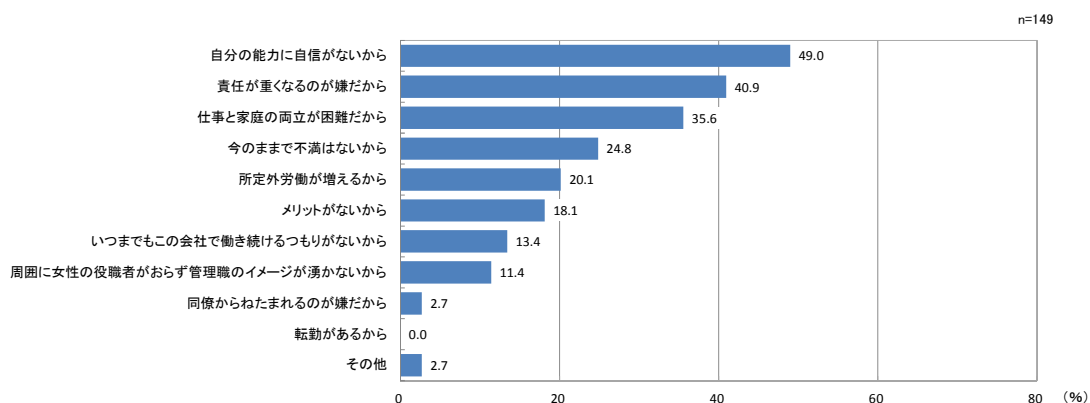
管理職への昇格希望に関して正規社員数別にみると、全ての規模区分で「なりたくない」との回答が最多であった。



「管理職になりたくない」と答えた方にお聞きします。

問2-1 なりたくない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

女性管理職になりたくない理由に関しては、「自分の能力に自信がないから」が最多で49.0%(73件)、「責任が重くなるのが嫌だから」が40.9%(61件)と、ともに4割を超えた。

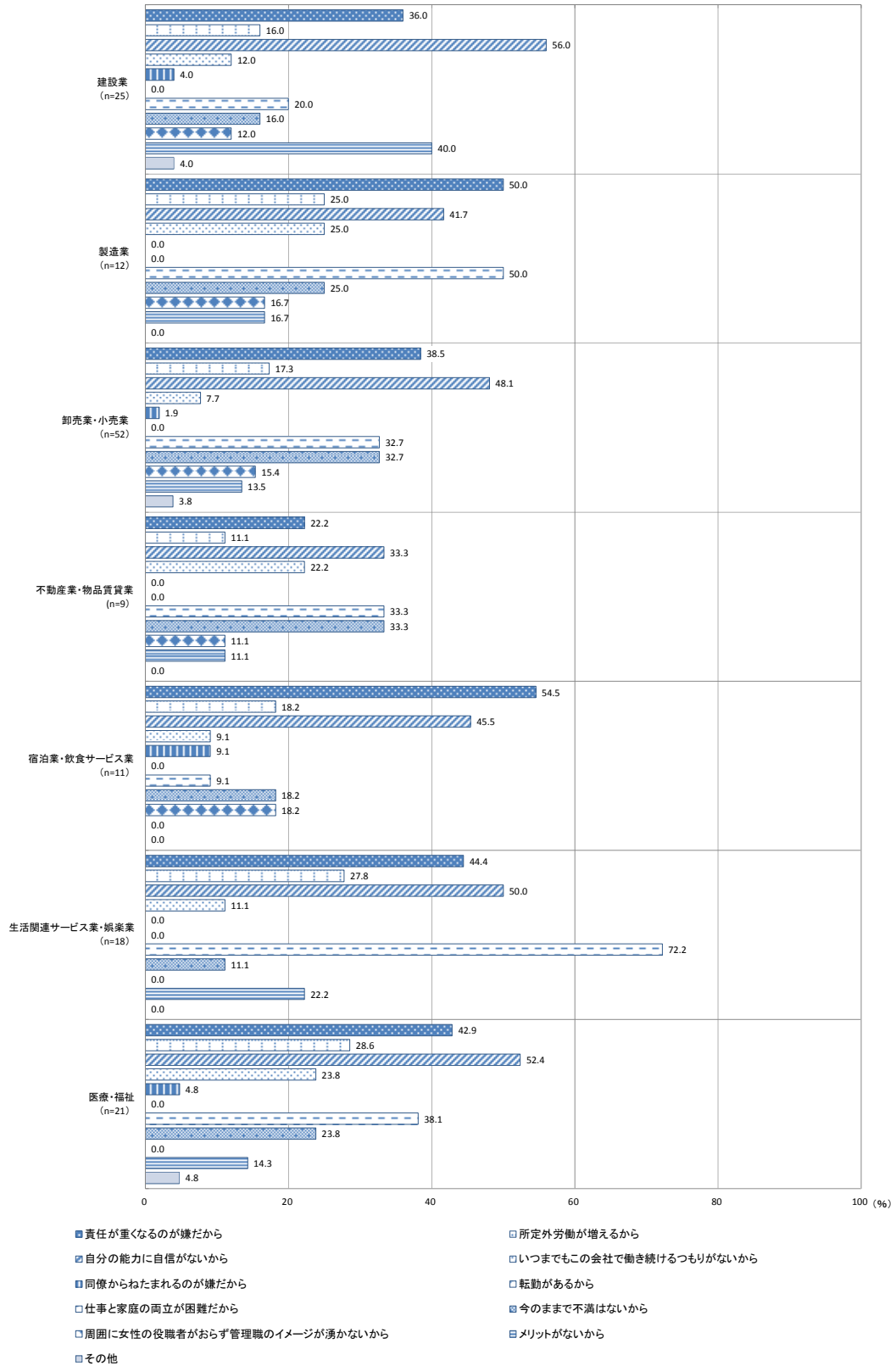


【その他の内容の具体例】 全3件

- 社風が男社会だから、女性が管理職になっても「名ばかり管理職」になると思うので
- 年齢が63才なので年の若い人が引っ張っていった方が良いと思うから
- 責任だけ重くなりそうだから

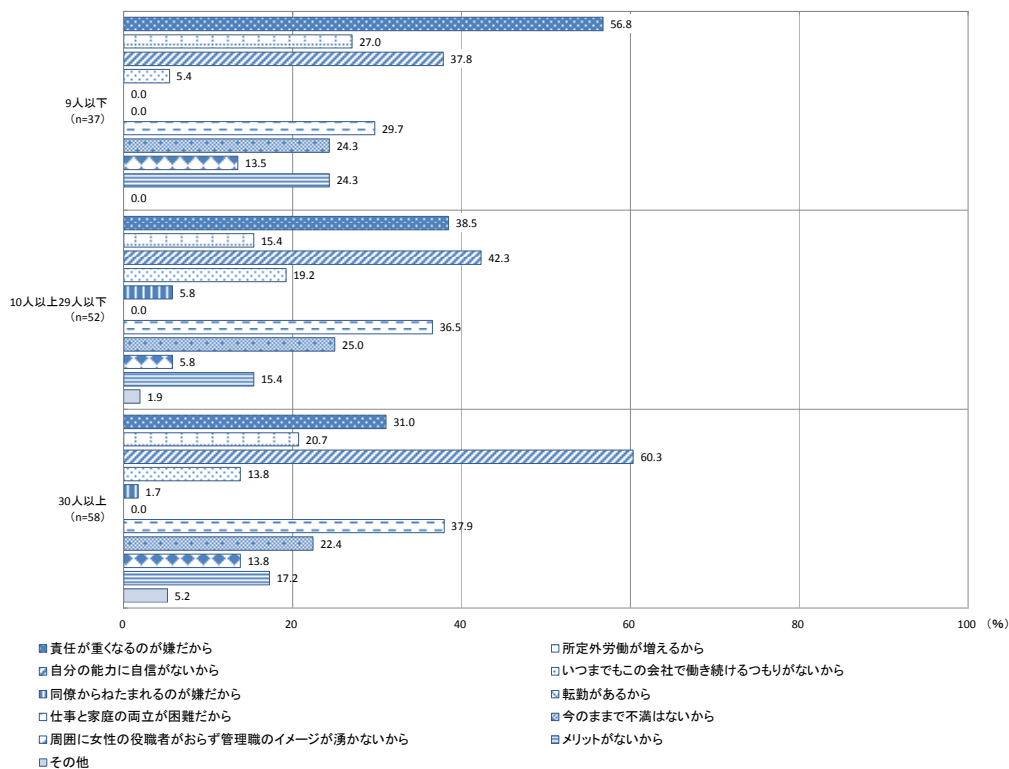
【業種別】

女性管理職になりたくない理由に関して業種別にみると、「自分の能力に自信がないから」が<建設業><生活関連サービス業・娯楽業><医療・福祉>で5割以上となった。



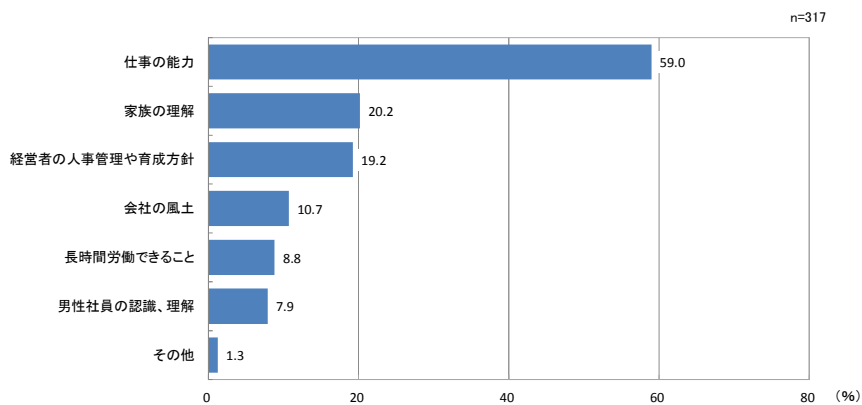
【正規社員数別】

女性管理職になりたくない理由に関して正規社員数別にみると、それぞれ最多の回答は<9人以下>では「責任が重くなるのが嫌だから」、<10人以上29人以下><30人以上>では「自分の能力に自信がないから」であった。



問3 会社で女性が管理的地位に就くためには、何が一番重要だと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。【複数回答に変更しての集計】

女性が管理的地位に就くための最も重要なこととしては、「仕事の能力」との回答が最も多く59.0%(187件)であった。

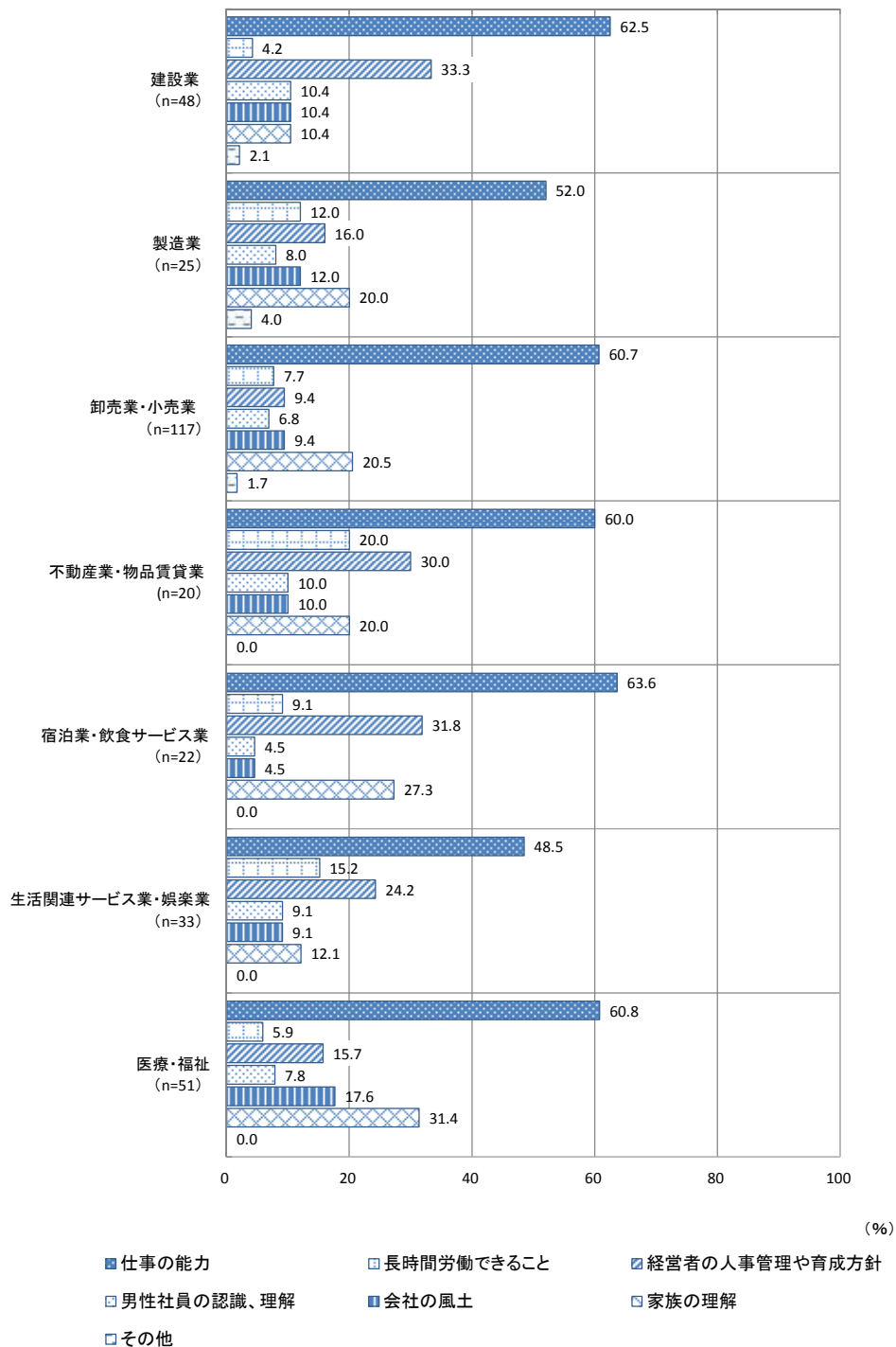


【その他の内容の具体例】 全3件

- 人の特性をくんで育成する人事管理
- 人格の向上面
- 経営者の認識・理解

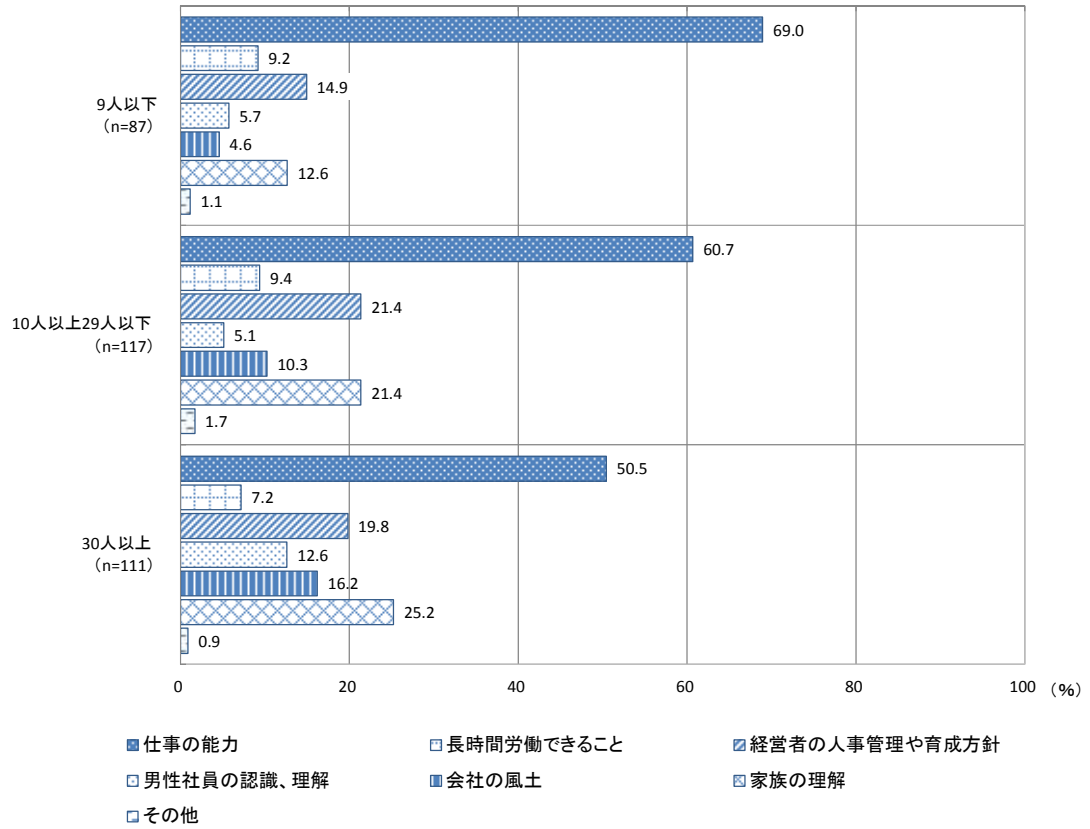
【業種別】

女性が管理的地位に就くための最も重要なことに関して、業種別にみると、「仕事の能力」との回答が全業種で最も多く、＜建設業＞＜卸売業・小売業＞＜不動産業・物品賃貸業＞＜宿泊業・飲食サービス業＞＜医療・福祉＞では6割以上となった。



【正規社員数別】

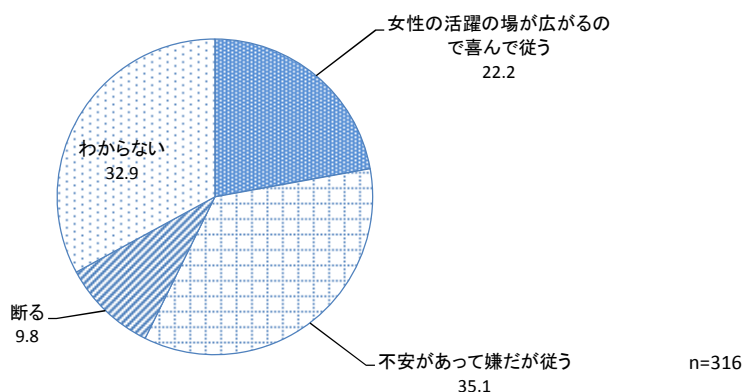
女性が管理的地位に就くための最も重要なことに関して正規社員数別にみると、全ての規模区分で「仕事の能力」との回答が最多であった。特に正規社員数が少なくなるほどその傾向が高い。



4 女性従業員の配置について

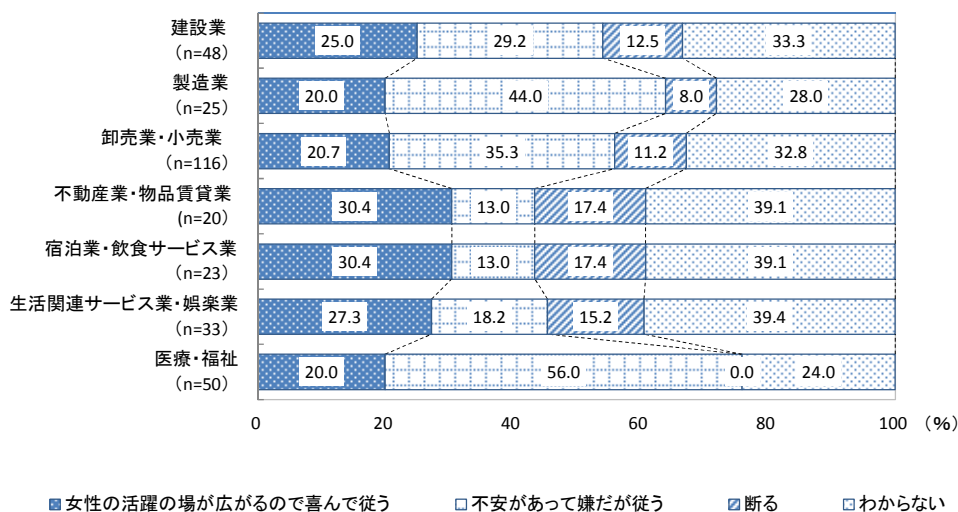
問4 あなたは、今まで女性の配置が少なかった職務に異動を命じられたらどう思いますか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

今まで女性の配置が少なかった職務への異動に関しては、「不安があって嫌だが従う」が最多で35.1%(111件)、「女性の活躍の場が広がるので喜んで従う」が22.2%(70件)、「断る」が9.8%(31件)であった。「わからない」との回答も32.9%(104件)あった。



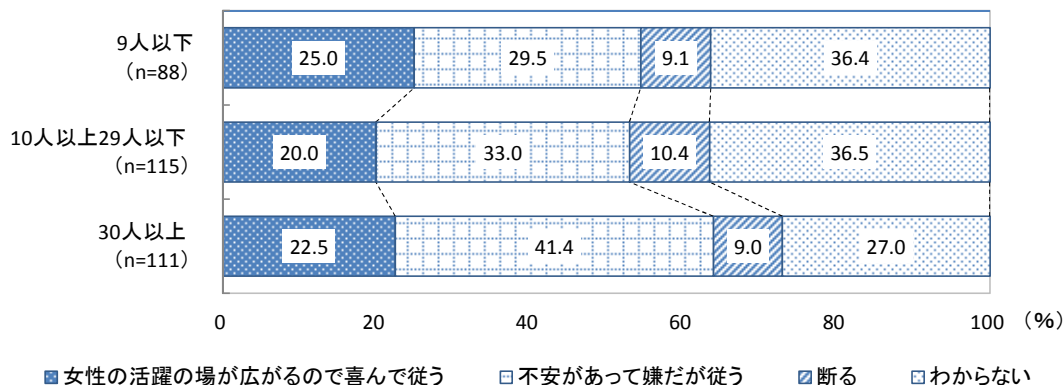
【業種別】

今まで女性の配置が少なかった職務への異動に関して業種別にみると、「わからない」を除いて<建設業><製造業><卸売業・小売業><不動産業・物品賃貸業><医療・福祉>では「不安があって嫌だが従う」が最も多く、<宿泊業・飲食サービス業><生活関連サービス業・娯楽業>では「女性の活躍が広がるので喜んで従う」が最多であった。



【正規社員数別】

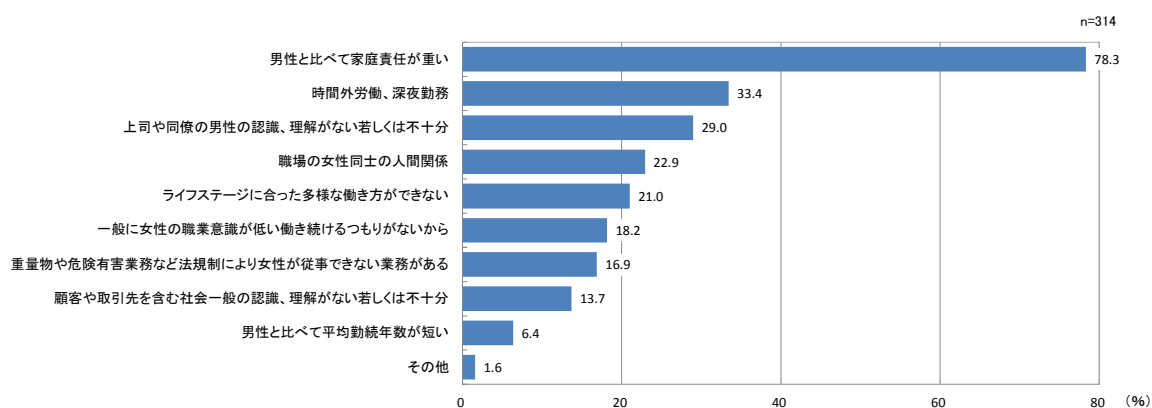
今まで女性の配置が少なかった職務への異動に関して正規社員数別にみると、すべての規模で「不安があって嫌だが従う」との回答が最多で、正規社員数が増えるほどその傾向が高い。（「わからない」を除く）



5 女性従業員が活躍するために阻害となっているもの

問5 女性社員が活躍するために阻害となっているものは何だと思えますか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

女性社員活躍の阻害となっているものに関しては、「男性と比べて家庭責任が重い」との回答が最も多く、78.3%(246件)であった。

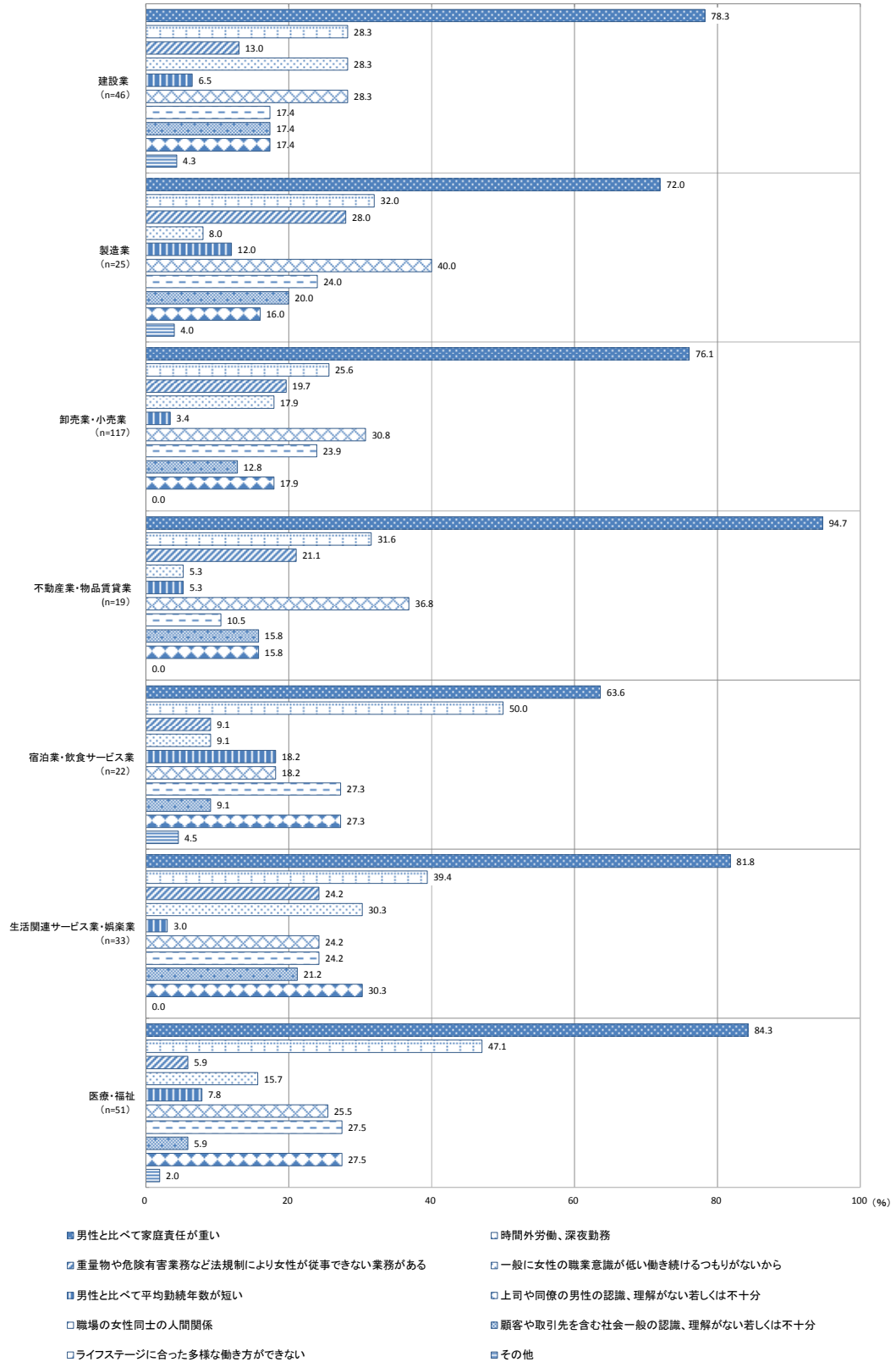


【その他の内容の具体例】 全5件

- 出産のタイミング
- 給料の差
- 一般的に結婚の際に辞めないといけない
- まだまだ、色々な経験が必要だと思う
- 出産などのとき働き続けられるか、処遇がどの様になるかなど

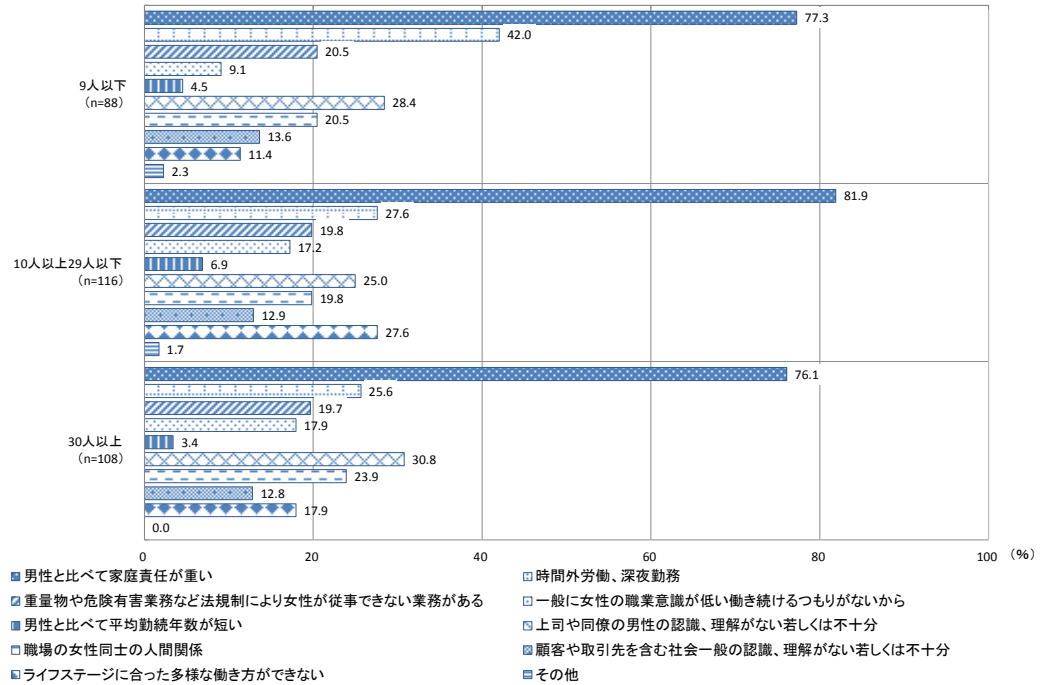
【業種別】

女性社員活躍の阻害となっているものに関して業種別にみると、全ての業種で「男性と比べて家庭責任が重い」との回答が最も多く、＜不動産業・物品賃貸業＞では9割、＜生活関連サービス業・娯楽業＞＜医療・福祉＞では8割を超えた。



【正規社員数別】

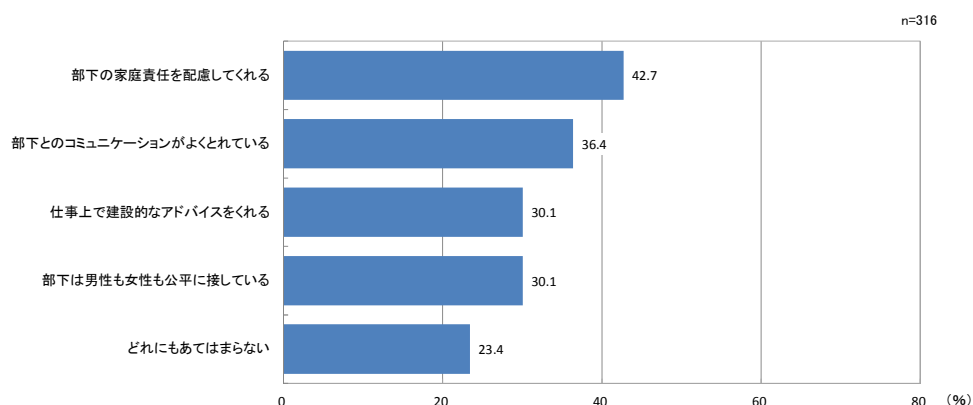
女性社員活躍の阻害となっているものに関して正規社員数別にみると、全ての業種で「男性と比べて家庭責任が重い」との回答が最多であり、7割を超えた。



6 職場環境

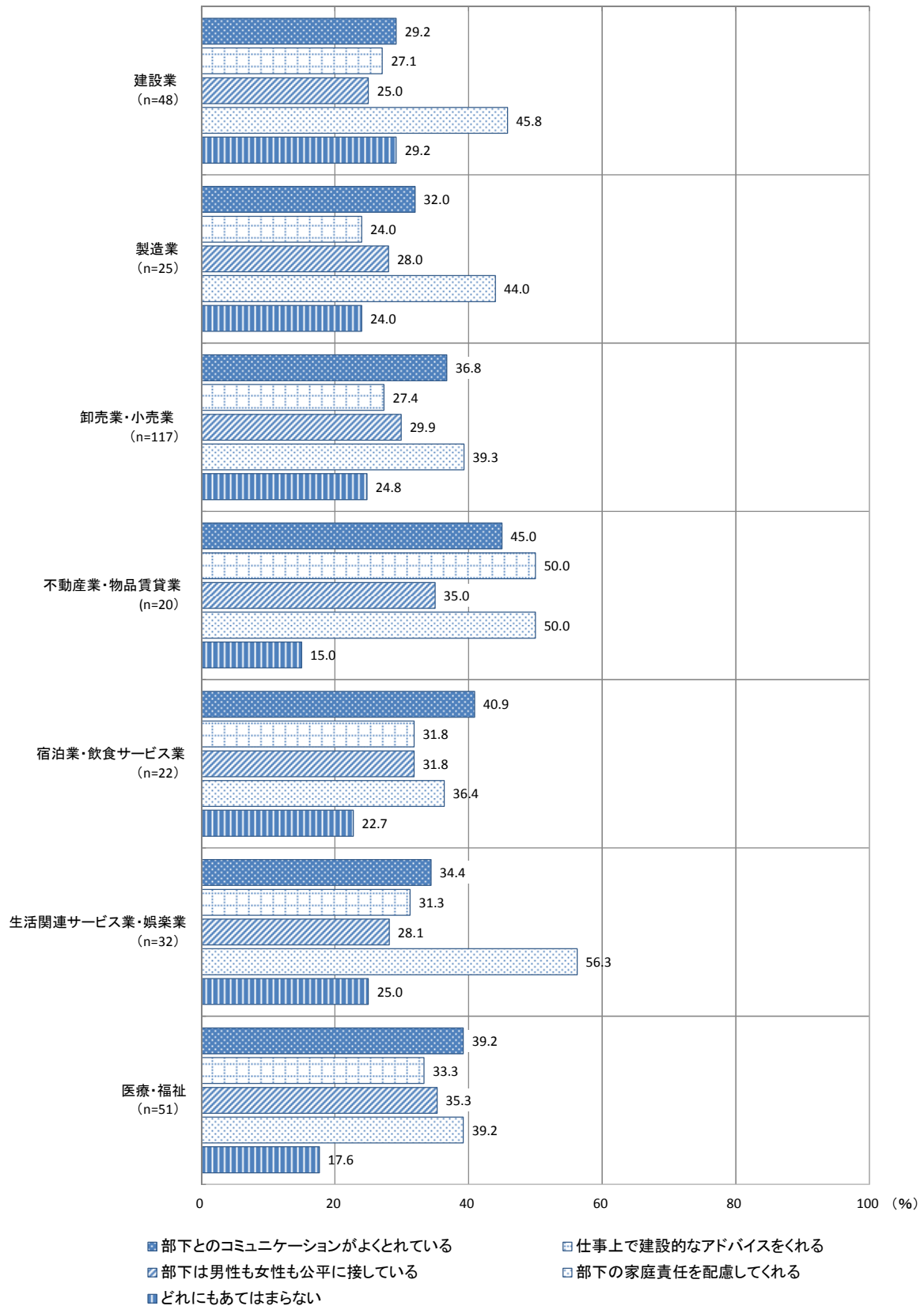
問 6 あなたの上司はどれにあてはまりますか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

上司に関してみると、「部下の家庭責任を配慮してくれる」が最多で 42.7%(135 件)、「部下とのコミュニケーションがよくとれている」が 36.4%(115 件)、「仕事上で建設的なアドバイスをしてくれる」と「部下は男性も女性も公平に接している」が 30.1%(95 件) の同率で続いた。



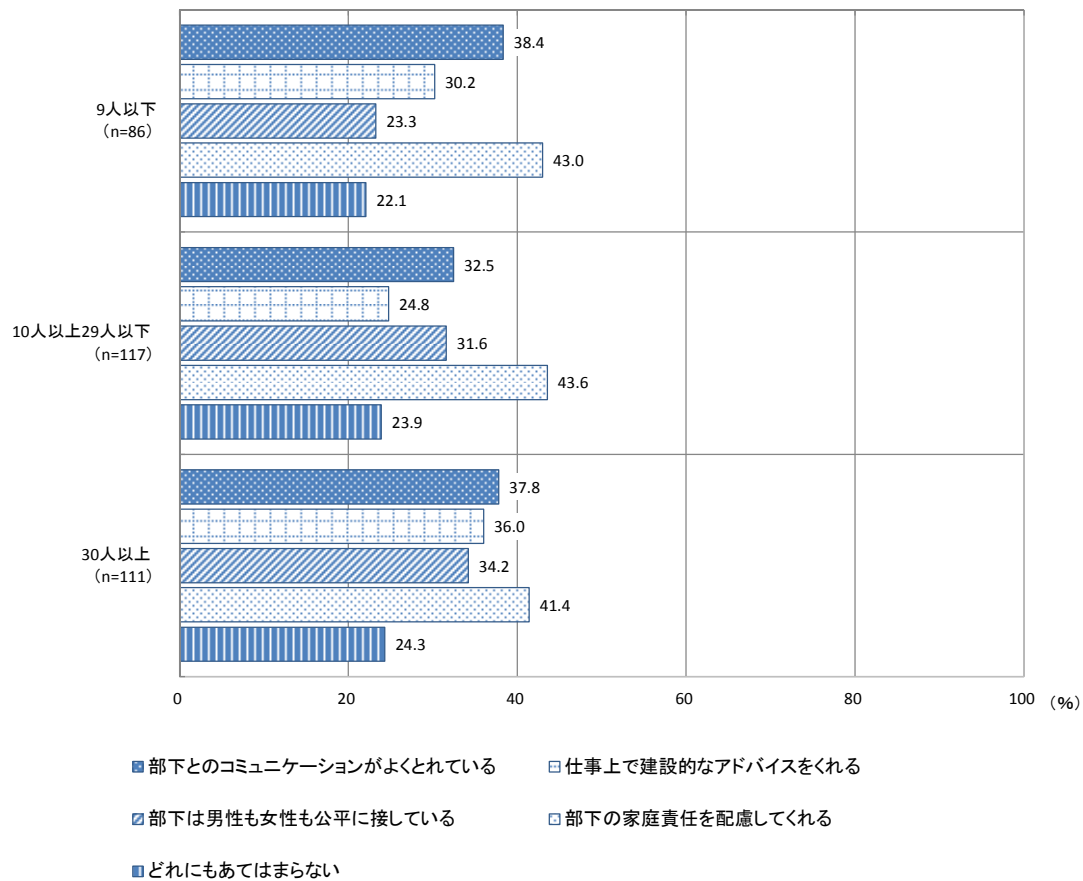
【業種別】

上司に関して業種別にみると、＜建設業＞＜製造業＞＜卸売業・小売業＞＜生活関連サービス業・娯楽業＞では「部下の家庭責任を配慮してくれる」が最多で 4 割半ばから 5 割半ばとなった。＜宿泊業・飲食サービス業＞では「部下とのコミュニケーションがよくとれている」が最も多く 4 割強となった。＜不動産業・物品賃貸業＞では「仕事上で建設的なアドバイスをくれる」と「部下の家庭責任を配慮してくれる」が同率で最多となり、＜医療・福祉＞では「部下とのコミュニケーションがよくとれている」と「部下の家庭責任を配慮してくれる」が同数で最多でとなった。



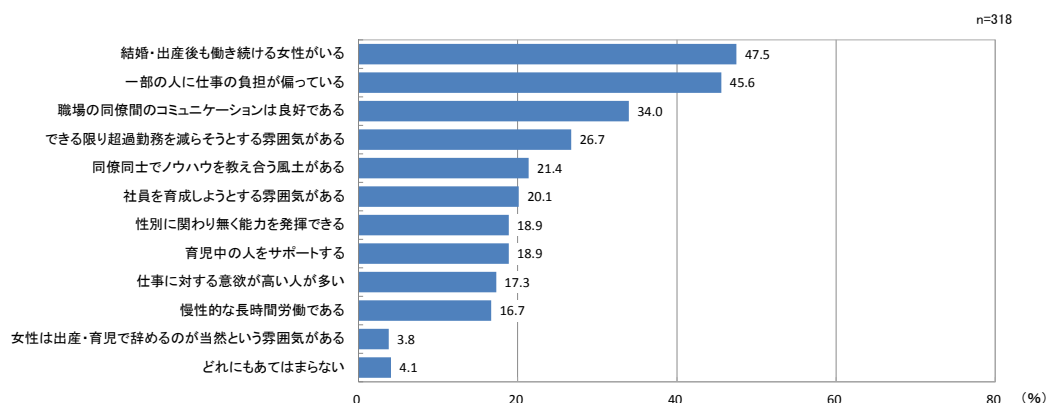
【正規社員数別】

上司に関して正規社員数別にみると、全ての規模区分で「部下の家庭責任を配慮してくれる」が最も多く、4割を超えた。「部下とのコミュニケーションがよくとれている」との回答が2番目に続いた。



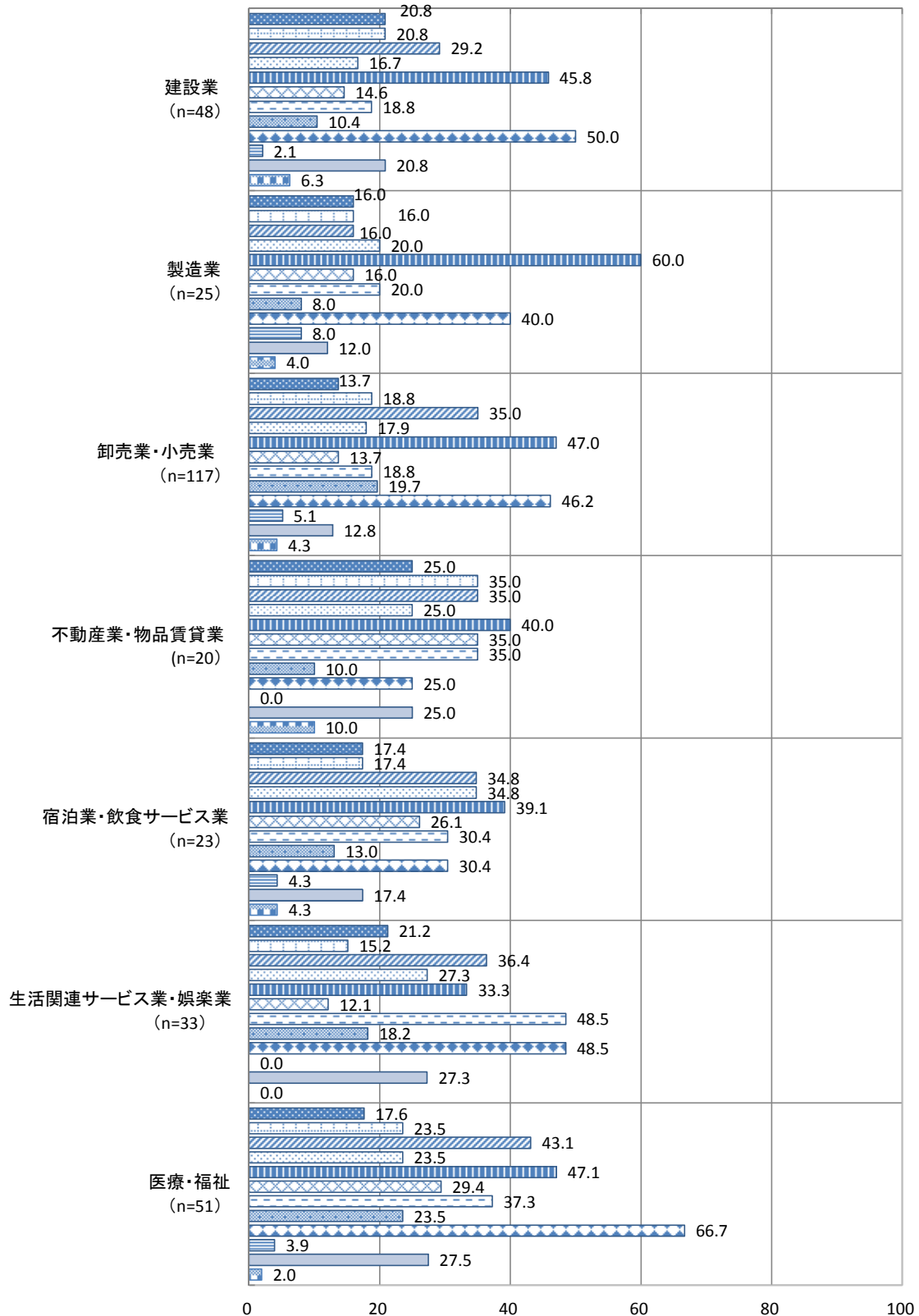
問7 あなたは、職場の雰囲気を感じていますか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

職場の雰囲気に対する印象に関しては、「結婚・出産後も働き続ける女性がいる」が最多で47.5%(151件)であった。次に多い回答が「一部の人に仕事の負担が偏っている」45.6%(145件)であり、ともに4割を超えた。



【業種別】

職場の雰囲気に対する印象に関して業種別にみると、＜建設業＞＜医療・福祉＞では「結婚・出産後も働き続ける女性がいる」が最も多く、＜製造業＞＜卸売業・小売業＞＜不動産業・物品賃貸業＞＜宿泊業・飲食サービス業＞では「一部の人に仕事の負担が偏っている」が最多であった。また＜生活関連サービス業・娯楽業＞では「できる限り超過勤務を減らそうとする雰囲気がある」と「結婚・出産後も働き続ける女性がいる」が同率で最多となった。

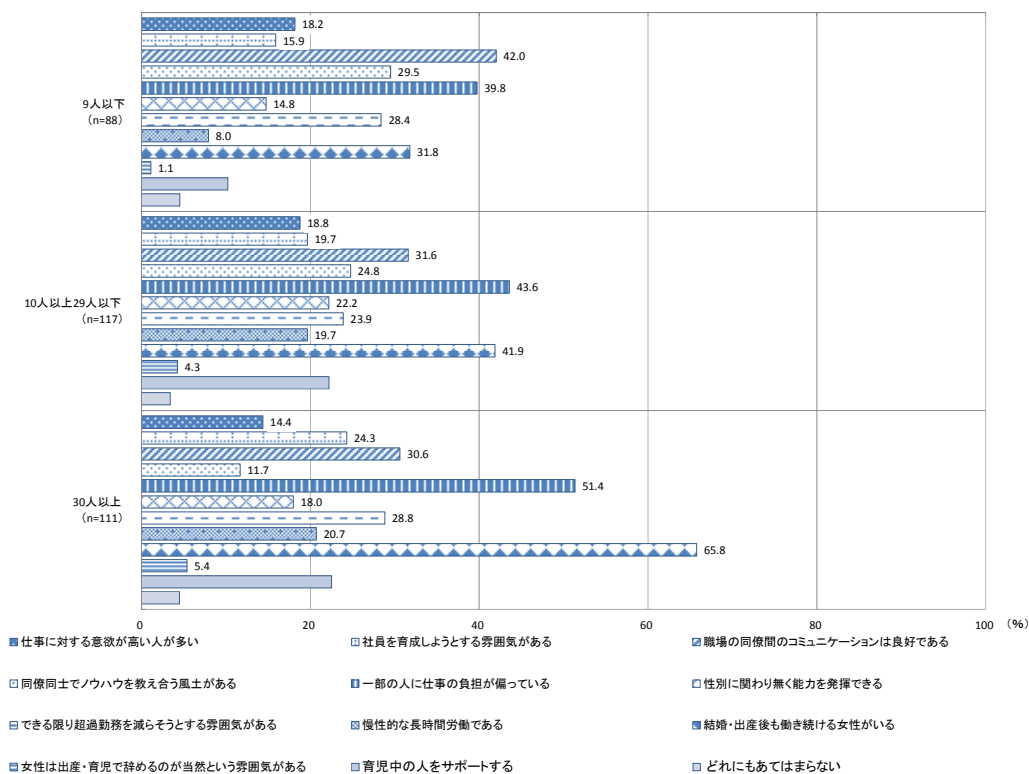


(%)

- 仕事に対する意欲が高い人が多い
- 職場の同僚間のコミュニケーションは良好である
- 一部のみに仕事の負担が偏っている
- できる限り超過勤務を減らそうとする雰囲気がある
- 結婚・出産後も働き続ける女性がいる
- 育児中の人をサポートする
- 社員を育成しようとする雰囲気がある
- 同僚同士でノウハウを教え合う風土がある
- 性別に関わり無く能力を発揮できる
- 慢性的な長時間労働である
- 女性は出産・育児で辞めるのが当然という雰囲気がある
- どれにもあてはまらない

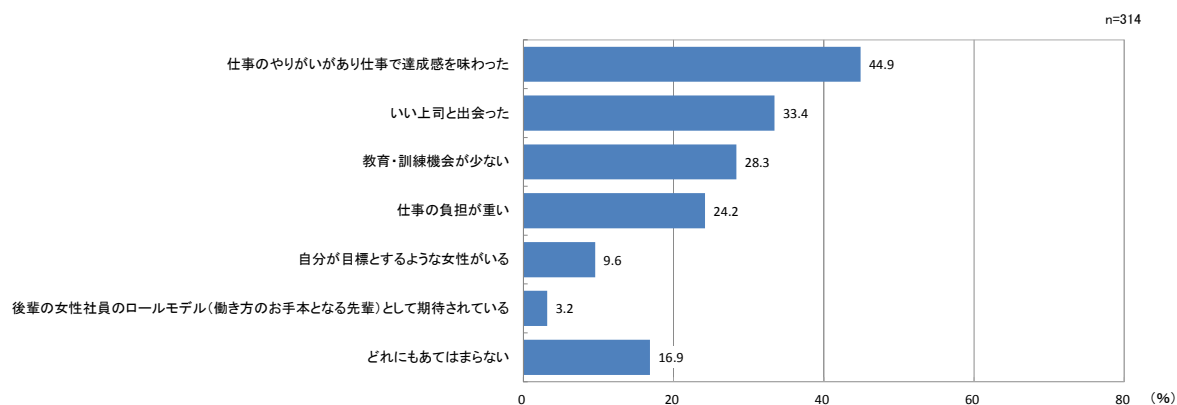
【正規社員数別】

職場の雰囲気に対する印象に関して正規社員数別にみると、<9人以下>では「職場の同僚間のコミュニケーションは良好である」が42.0%(37件)で最多である。<10人以上29人以下>では「一部の人に仕事の負担が偏っている」43.6%(51件)、<30人以上>では「結婚・出産後も働き続ける女性がいる」が65.8%(73件)で最も多かった。



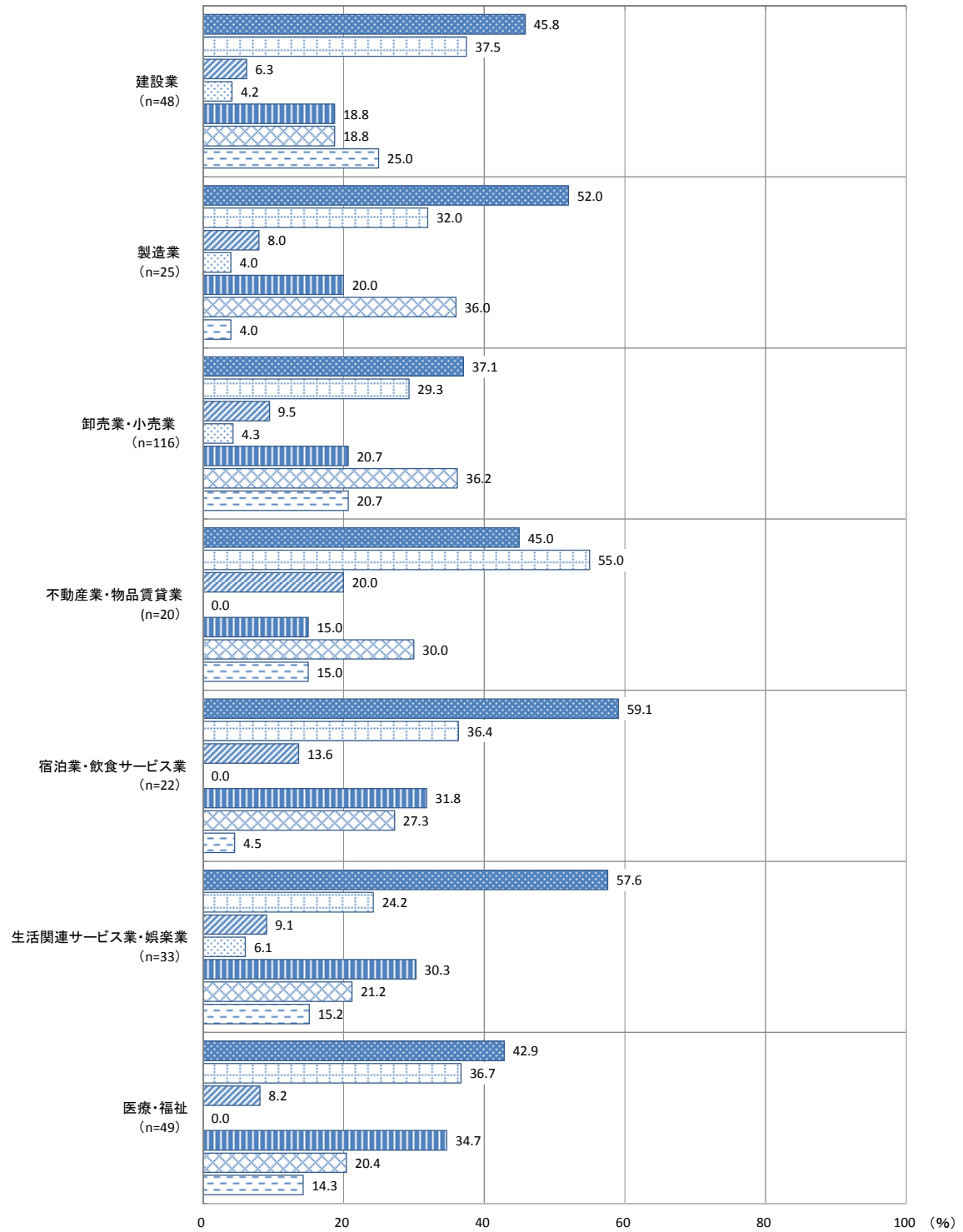
問8 あなたは今までに職場において、次のことを感じたことがありますか。感じたことのあるものすべてに○を付けてください。

今まで職場で感じたことに関して、最も多い回答は「仕事のやりがいがあり仕事で達成感を味わった」44.9%（141件）であった。



【業種別】

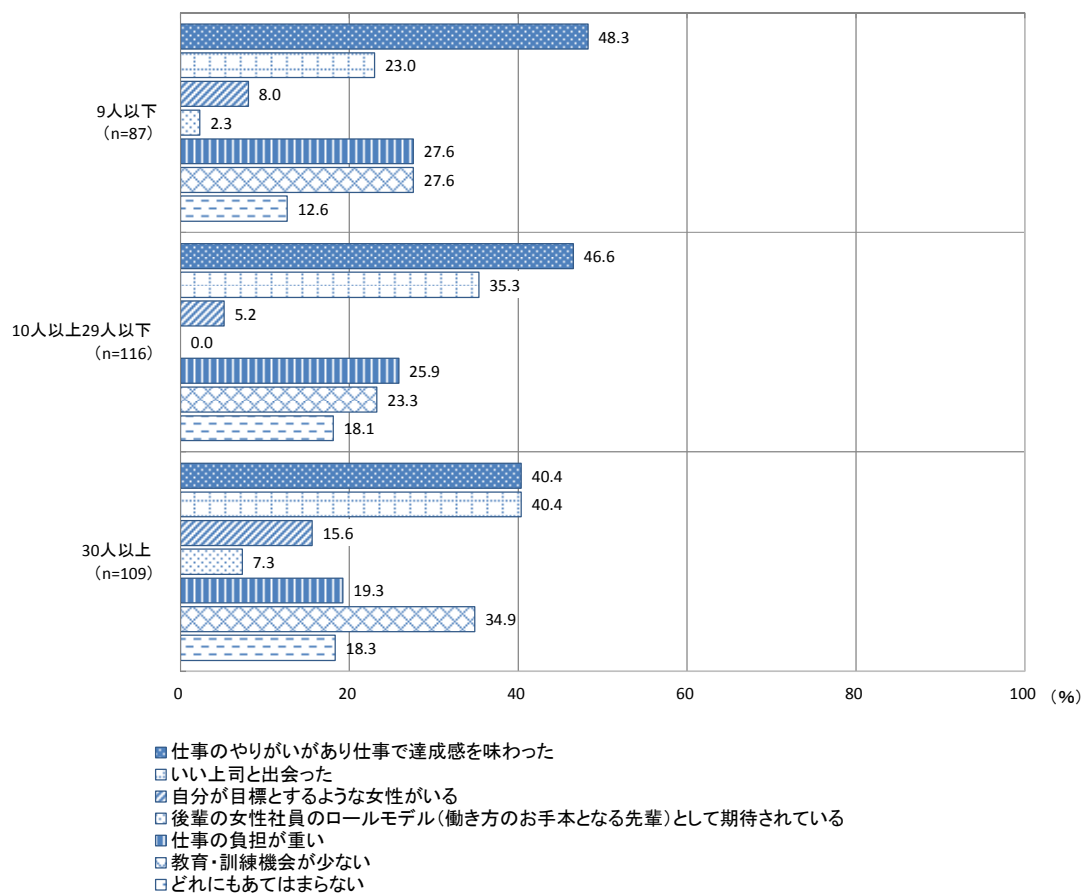
今まで職場で感じたことに関して業種別にみると、＜不動産業・物品賃貸業＞を除く6業種では「仕事のやりがいがあり仕事で達成感を味わった」が最多で4割弱から5割強であった。＜不動産業・物品賃貸業＞では「いい上司と出会った」が最も多く5割超であった。



- 仕事のやりがいがあり仕事で達成感を味わった
- いい上司と出会った
- 自分が目標とするような女性がいる
- 先輩の女性社員のロールモデル(働き方のお手本となる先輩)として期待されている
- 仕事の負担が重い
- 教育・訓練機会が少ない
- どれにもあてはまらない

【正規社員数別】

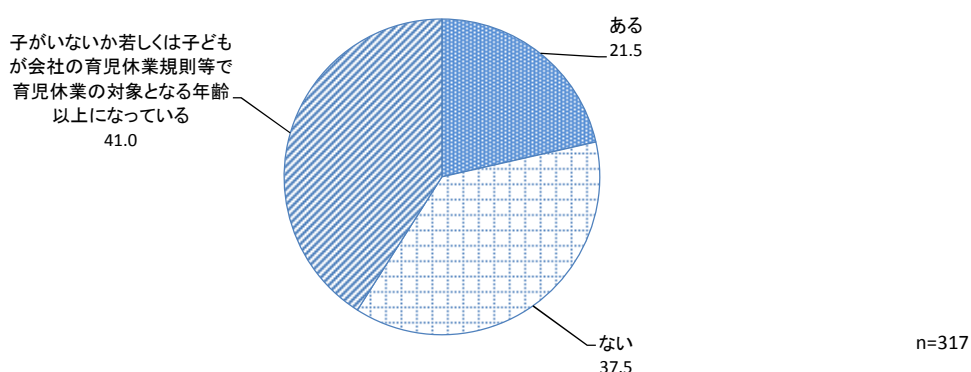
今まで職場で感じたことに関しては、全ての規模区分において「仕事のやりがいがあり仕事で達成感を味わった」が最も多く、<30人以上>のみ「いい上司と出会った」も同率で4割超と最多であった。



7 育児休暇

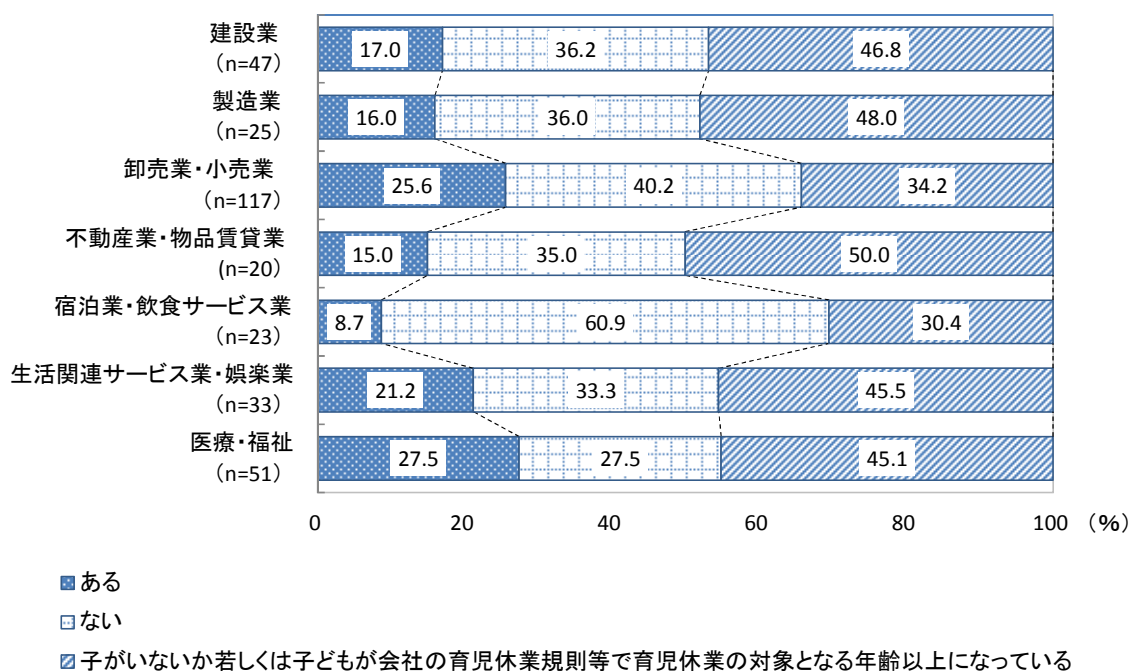
問9 あなたは現在の職場で育児休業を取得したことがありますか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

現在の職場での育児休業の取得状況については、「子がいなか若しくは子どもが会社の育児休業規則等で育児休業の対象となる年齢以上になっている」が 41.0% (130 件) で最多であり、「ない」が 37.5% (119 件)、「ある」が 21.5% (68 件) と続いた。



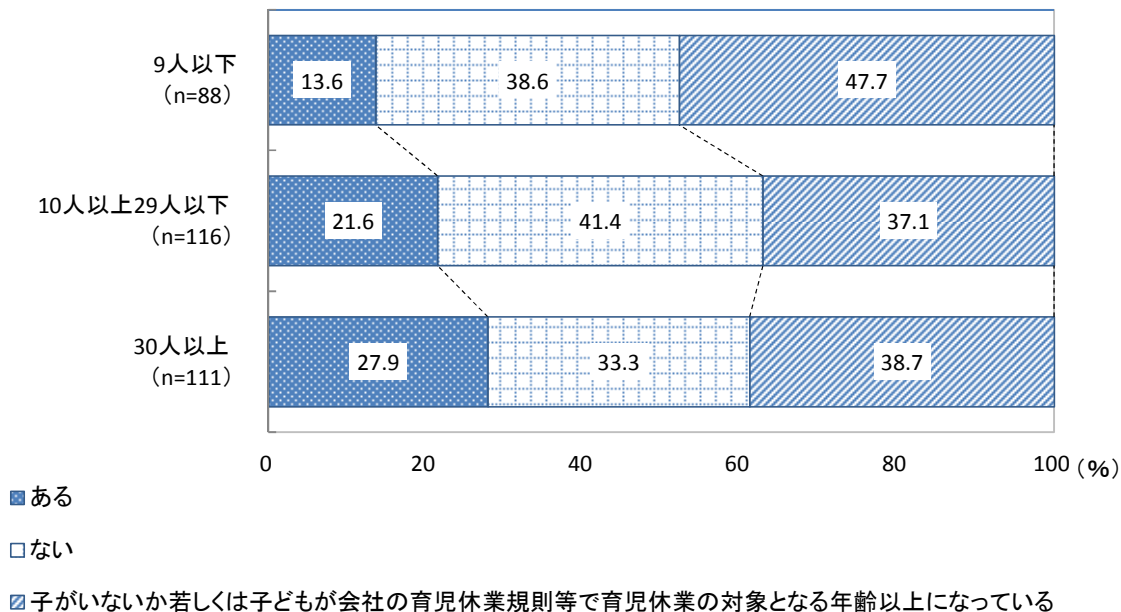
【業種別】

現在の職場での育児休業の取得状況について業種別にみると、「ない」または「子がいなか若しくは子どもが会社の育児休業規則等で育児休業の対象となる年齢以上になっている」という回答が多くみられるが、＜卸売業・小売業＞＜生活関連サービス業・娯楽業＞＜医療・福祉＞では「ある」との回答が比較的多く、2割を超えている。



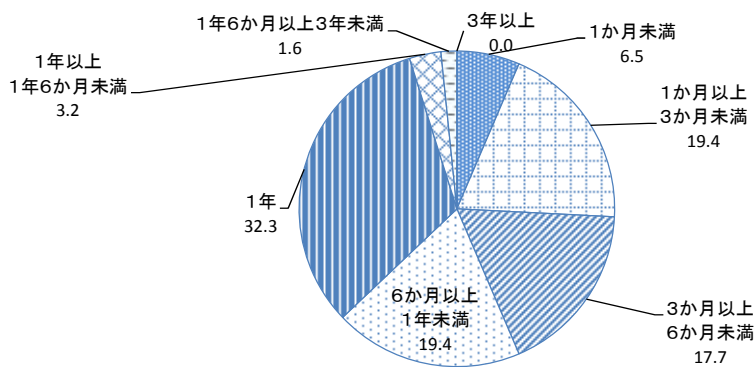
【正規社員数別】

現在の職場での育児休業の取得状況について正規社員数別にみると、規模が大きい会社ほど「ある」と回答した企業が多いことがわかる。



問 10 取得した場合、育児休業期間はどのくらいでしたか。あてはまるもの1つに○を付けてください。複数回ある場合は、最初の子どもの育児休業期間で回答してください。

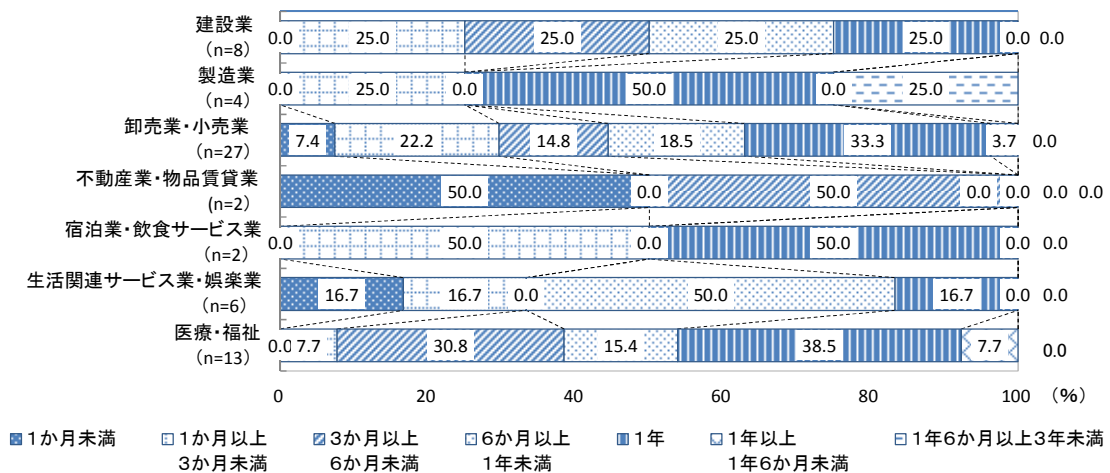
取得した育児休業期間については、「1年」が最も多く 32.3%（20 件）であった。



n=62

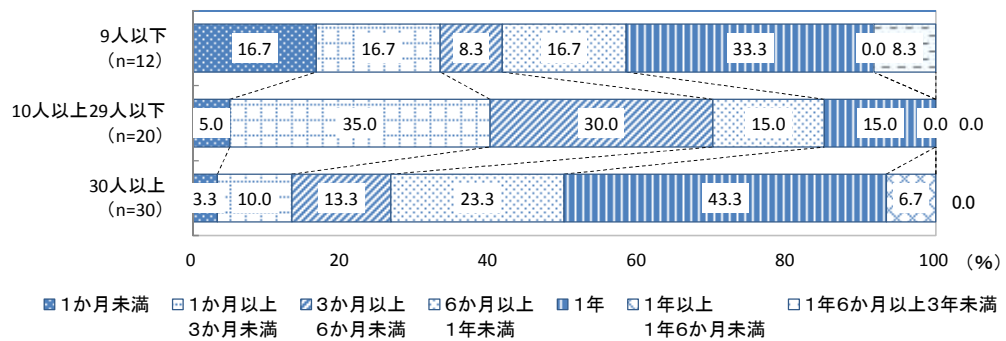
【業種別】

取得した育児休業期間について業種別にみると、全体的に回答数は少数であるが＜不動産業・物品賃貸業＞＜生活関連サービス業・娯楽業＞を除く 6 業種で「1年」との回答が最多であった。



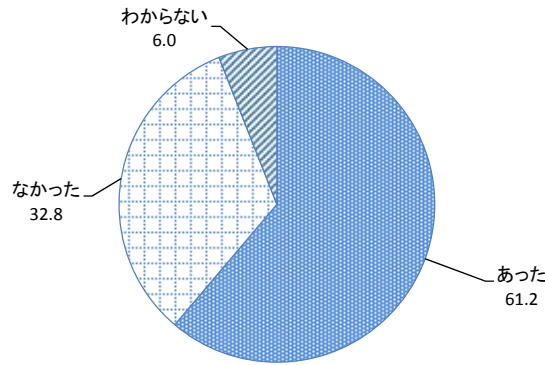
【正規社員数別】

取得した育児休業期間について正規社員数別にみると、正規社員数が多い会社ほど育児休業を取得している期間が長いことがわかる。



問 11 あなたの育児休業中に代替要員の配置はありましたか。あてはまるもの1つに○を付けてください。複数回ある場合は、最初の子どもの場合で回答してください。

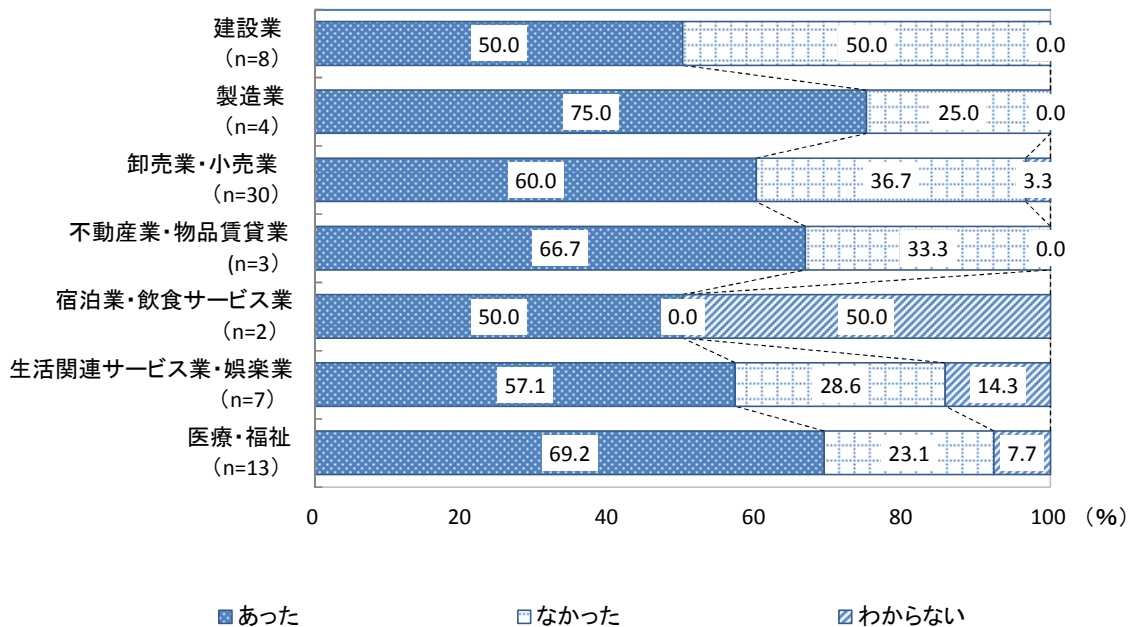
育児休業中の替要員の配置に関しては、「あった」が61.2%（41件）で最多であり、「なかった」が32.8%（22件）、数は少ないが「わからない」が6.0%（4件）となった。



n=67

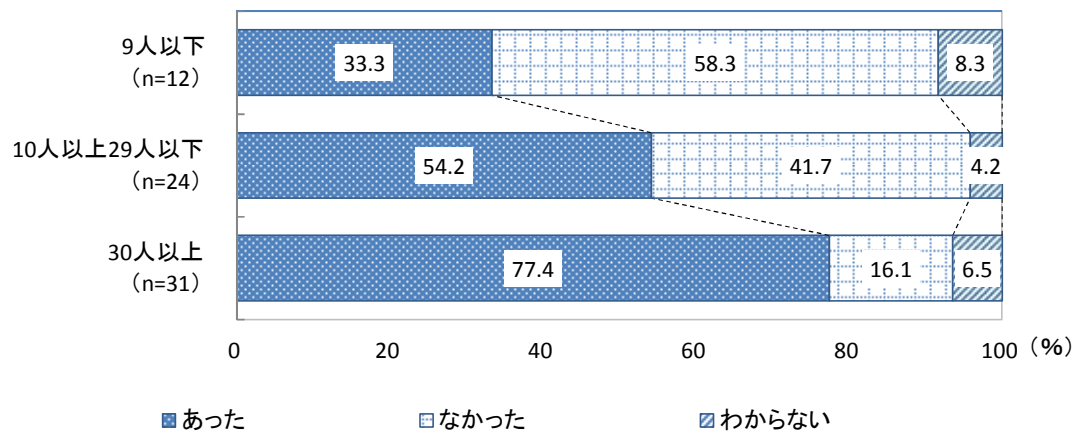
【業種別】

育児休業中の代替要員配置に関して業種別にみると、回答件数は少ないが全ての業種において「あった」が最も多く、＜製造業＞で7割を超えている。



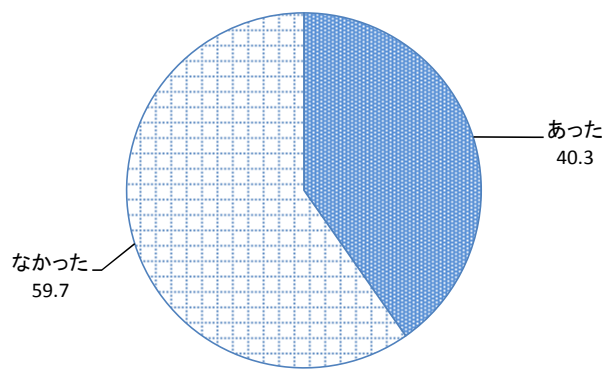
【正規社員数別】

育児休業中の代替要員配置に関して正規社員数別にみると、「あった」との回答は正規社員数が多くなるにつれ増える傾向にあり、＜30人以上＞では8割弱となった。



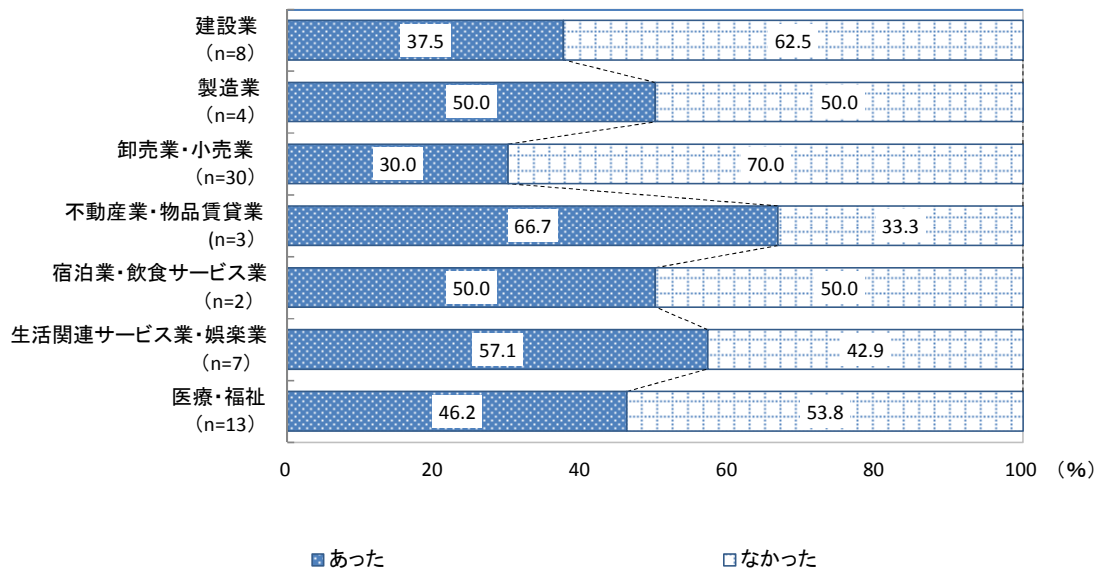
問 12 育児休業中に職場から定期的な情報提供はありましたか。あてはまるもの1つに○を付けてください。複数回ある場合は、最初の子どもの場合で回答してください。

育児休業中の職場からの定期的な情報提供に関しては、「あった」が40.3%（27件）、「なかった」は59.7%（40件）であった。



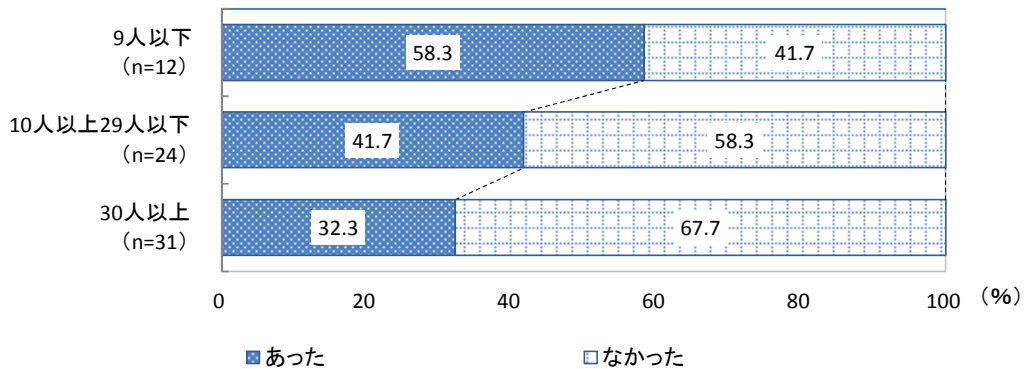
【業種別】

育児休業中の職場からの定期的な情報提供に関して業種別にみると、回答件数は少ないが、＜不動産業・物品賃貸業＞＜生活関連サービス業・娯楽業＞では「あった」との回答が多く6割弱を超え、＜建設業＞＜卸売業・小売業＞＜医療・福祉＞では「なかった」の方が多く5割以下となった。また＜製造業＞と＜宿泊業・飲食サービス業＞では「あった」と「なかった」が5割ずつの回答であった。



【正規社員数別】

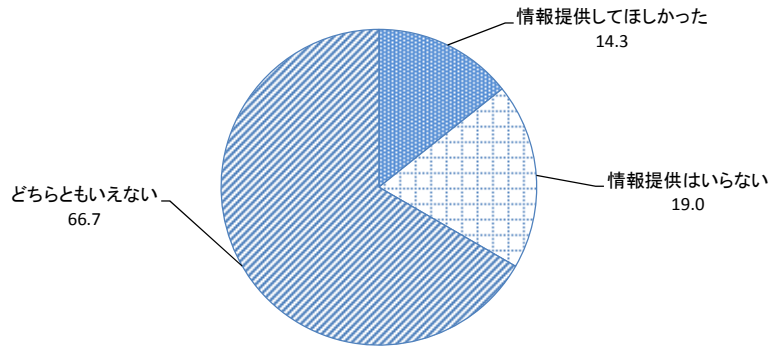
育児休業中の職場からの定期的な情報提供に関して正規社員数別にみると、「あった」と回答したのは<9人以下>の企業で最も多く、正規社員数が増えるごとにその割合が減少し<30人以上>では3割程度となった。



「育児休業中に職場から定期的な情報提供はなかった」と答えた方にお聞きます。

問 12-1 職場からの定期的な情報提供についてどう思いますか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

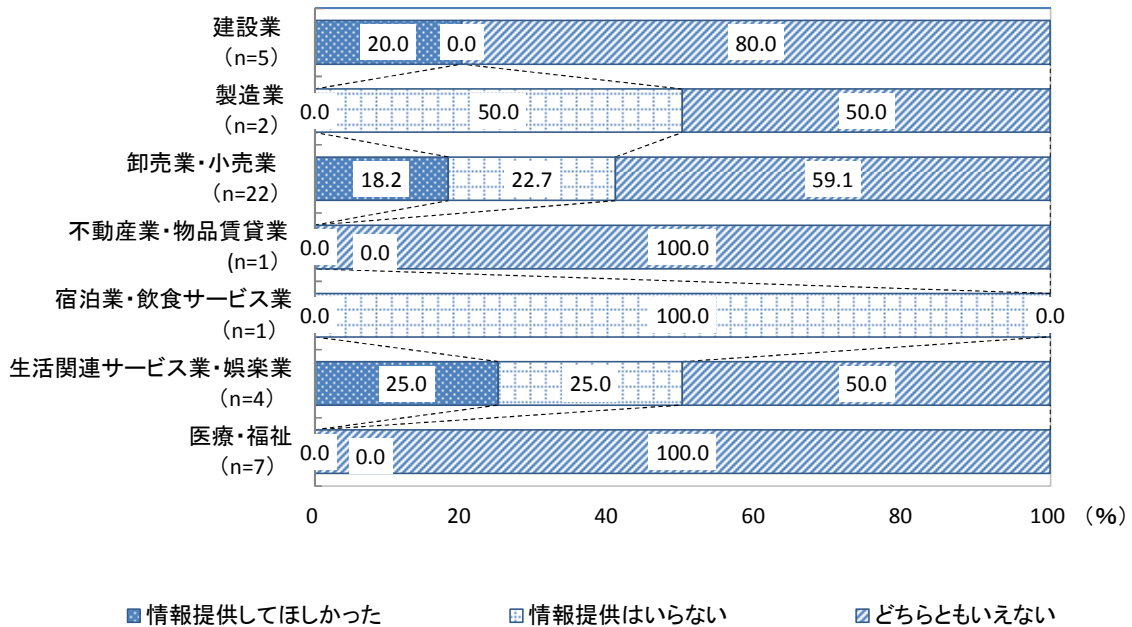
育児休業中における職場からの定期的な情報提供の希望有無に関しては、最も多い回答は「どちらともいえない」で66.7%（28件）であった。



n=42

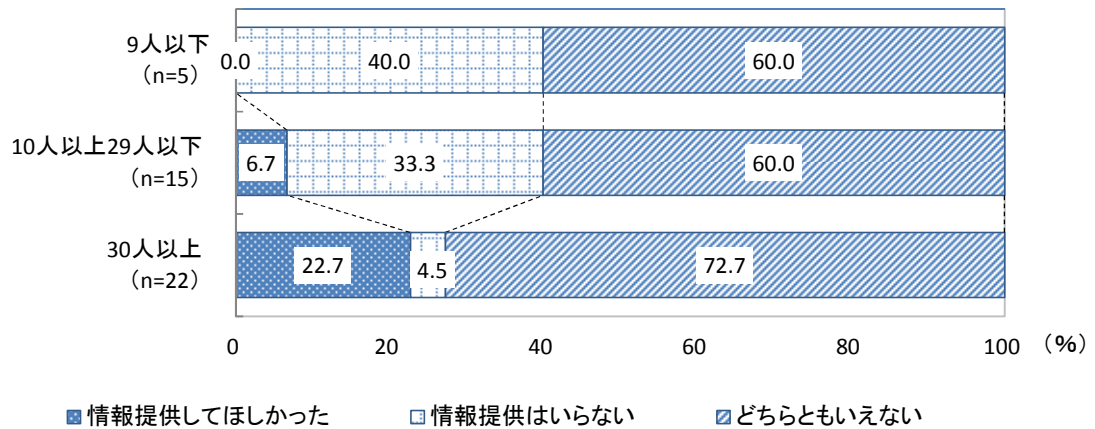
【業種別】

育児休業中における職場からの定期的な情報提供の希望有無に関して業種別にみると、回答数は少ないが＜宿泊業・飲食サービス業＞以外のすべての業種で「どちらともいえない」が最もく5割を超えた。



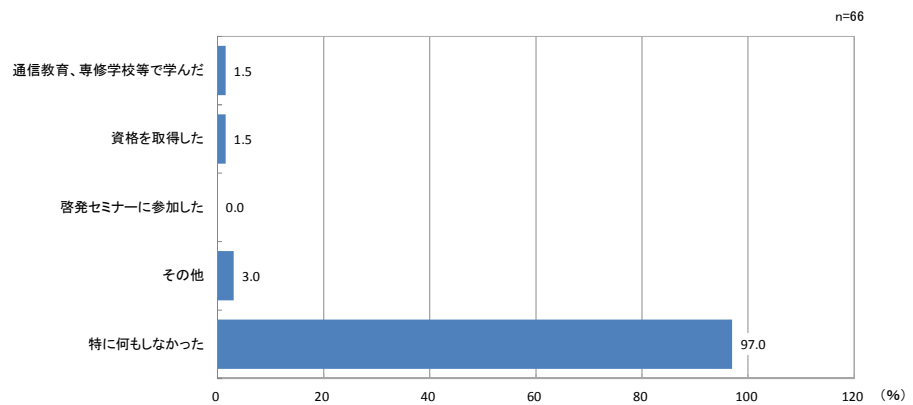
【正規社員数別】

育児休業中における職場からの定期的な情報提供の希望有無に関して正規社員数別にみると、回答数は少ないが「情報提供してほしいかった」という回答が正規社員数が多くなるほど増える傾向にあり、＜30人以上＞では7割を超えた。



問 13 育児休業中に自己研鑽のために何か取り組みましたか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

育児休業中の自己研鑽に関しては、「特に何もしなかった」との回答が最多であり97.0%（64件）であった。

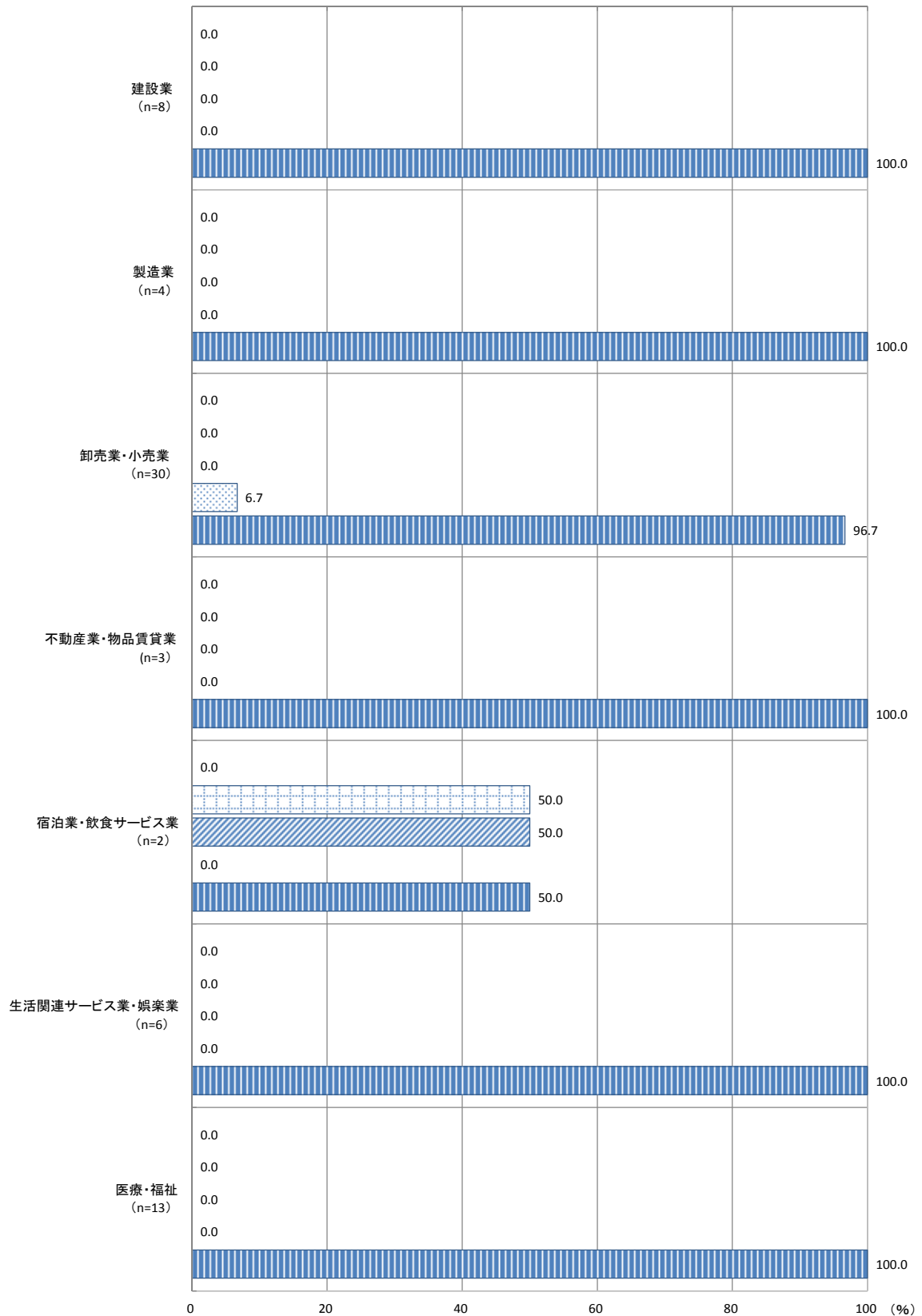


【その他の内容の具体例】 全1件

○育児に専念する為の休みであって自己研鑽のために何か取り組む余裕はない

【業種別】

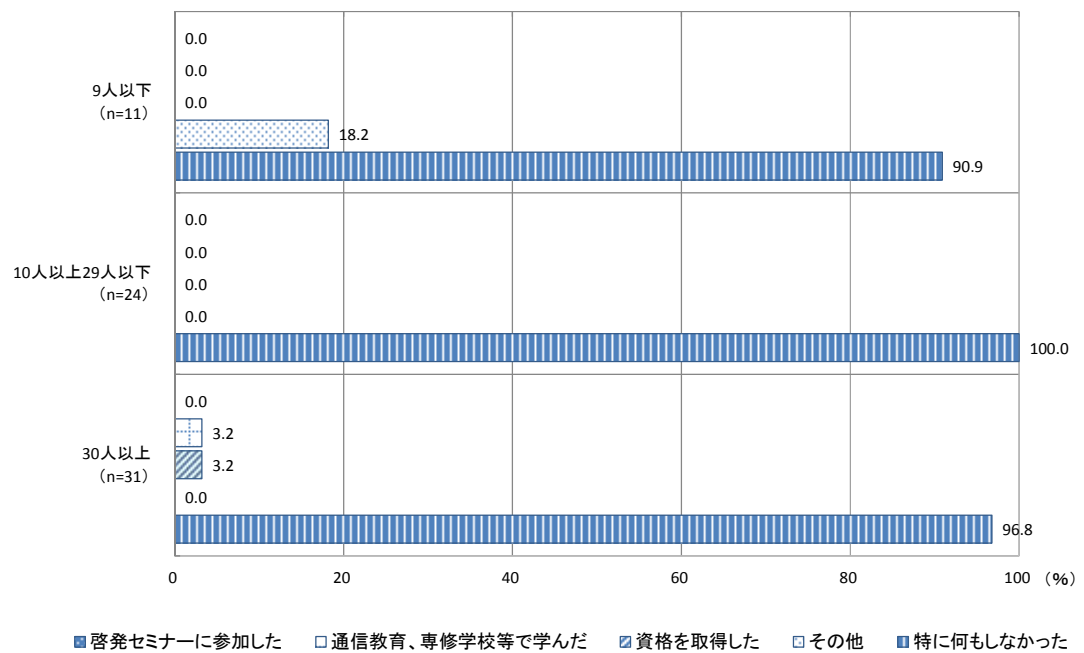
育児休業中の自己研鑽に関して業種別にみると、全体的に回答数は少ないが<宿泊業・飲食サービス業>を除く全ての業種で「特に何もなかった」が最も多かった。



■ 啓発セミナーに参加した □ 通信教育、専修学校等で学んだ ■ 資格を取得した □ その他 ■ 特に何もなかった

【正規社員数別】

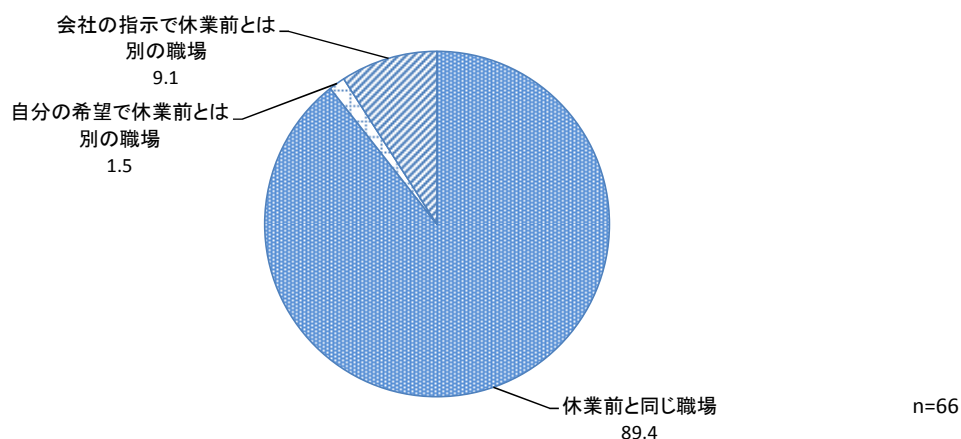
育児休業中の自己研鑽に関して正規社員数別にみると、全ての規模区分において「特に何もしなかった」との回答が最も多く、9割以上となった。



8 復職後の職場環境

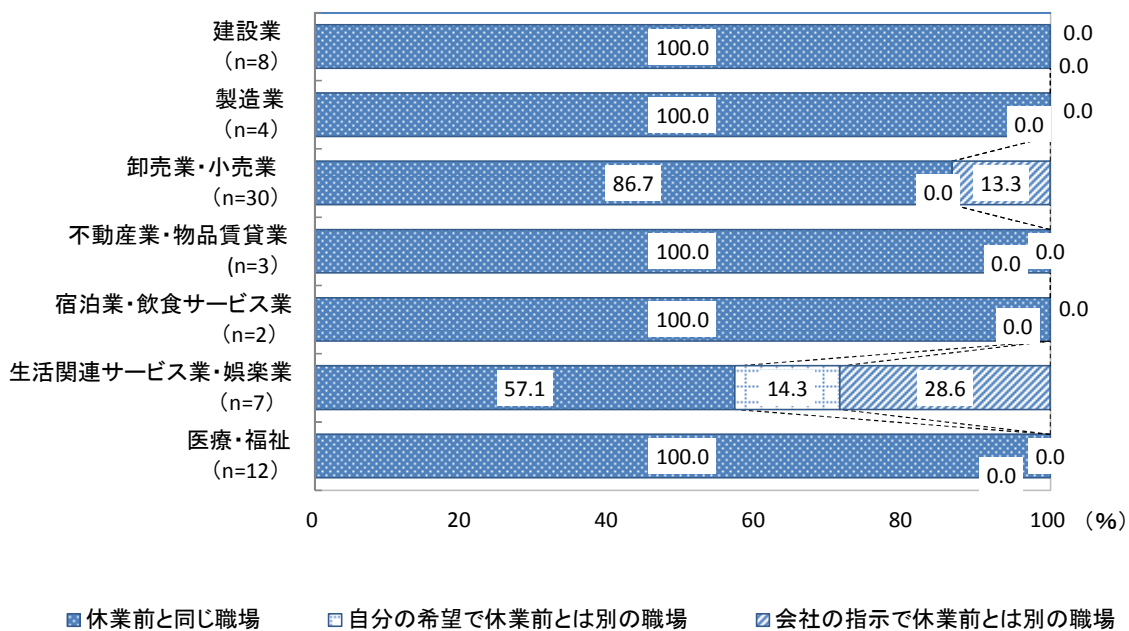
問 14 最初の復職時の配置先について伺います。あてはまるもの1つに○を付けてください。

最初の復職時の配置先については、「休業前と同じ職場」との回答が最も多く 89.4% (59 件) であった。



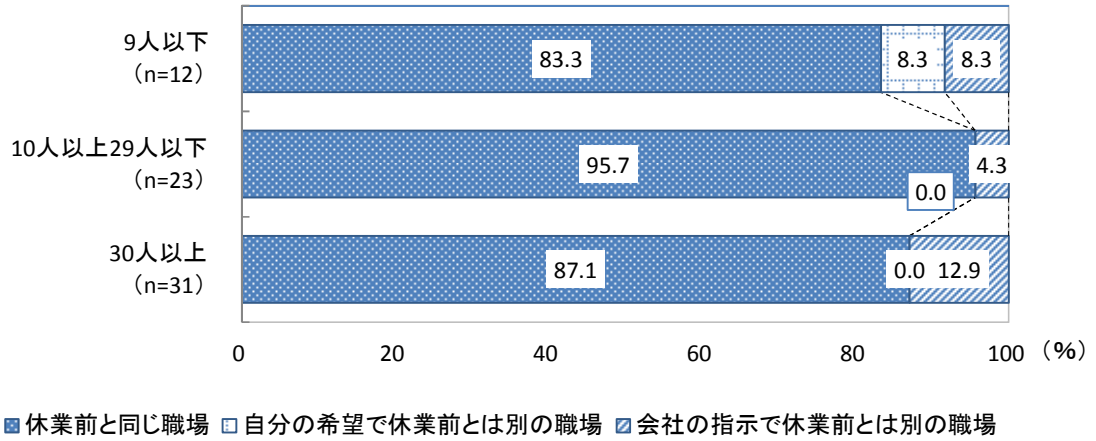
【業種別】

最初の復職時の配置先について業種別にみると、回答数は少ないが「休業前と同じ職場」との回答が最も多かった。



【正規社員数別】

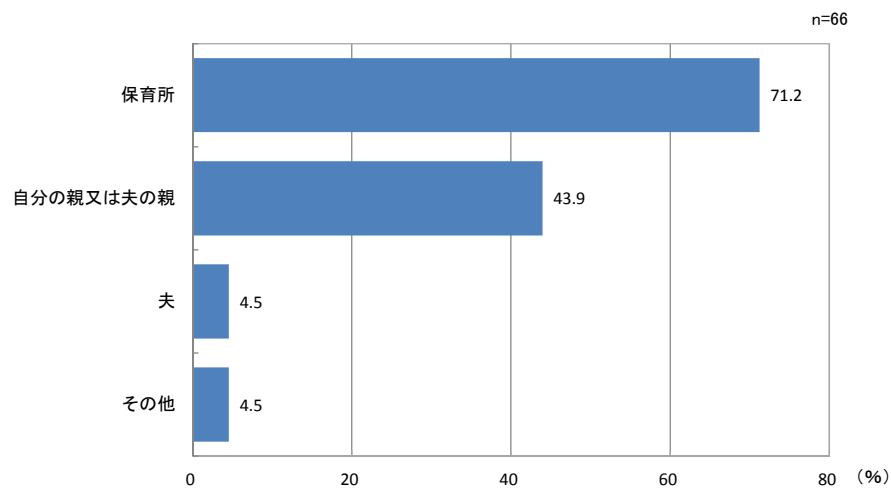
最初の復職時の配置先について正規社員数別にみると、全ての規模区分で「休業前と同じ職場」が最も多く8割以上となり、＜10人以上29人以下＞の企業では9割を超えた。



9 復職後の育児環境

問 15 あなたの復職後にあなたが勤務中の子どもの面倒は誰が見ていましたか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

復職後、勤務中に子どもの面倒をみていた人に関しては、「保育所」が最も多く 71.2% (47 件)、続いて「自分の親又は夫の親」が 43.9% (29 件) となった。

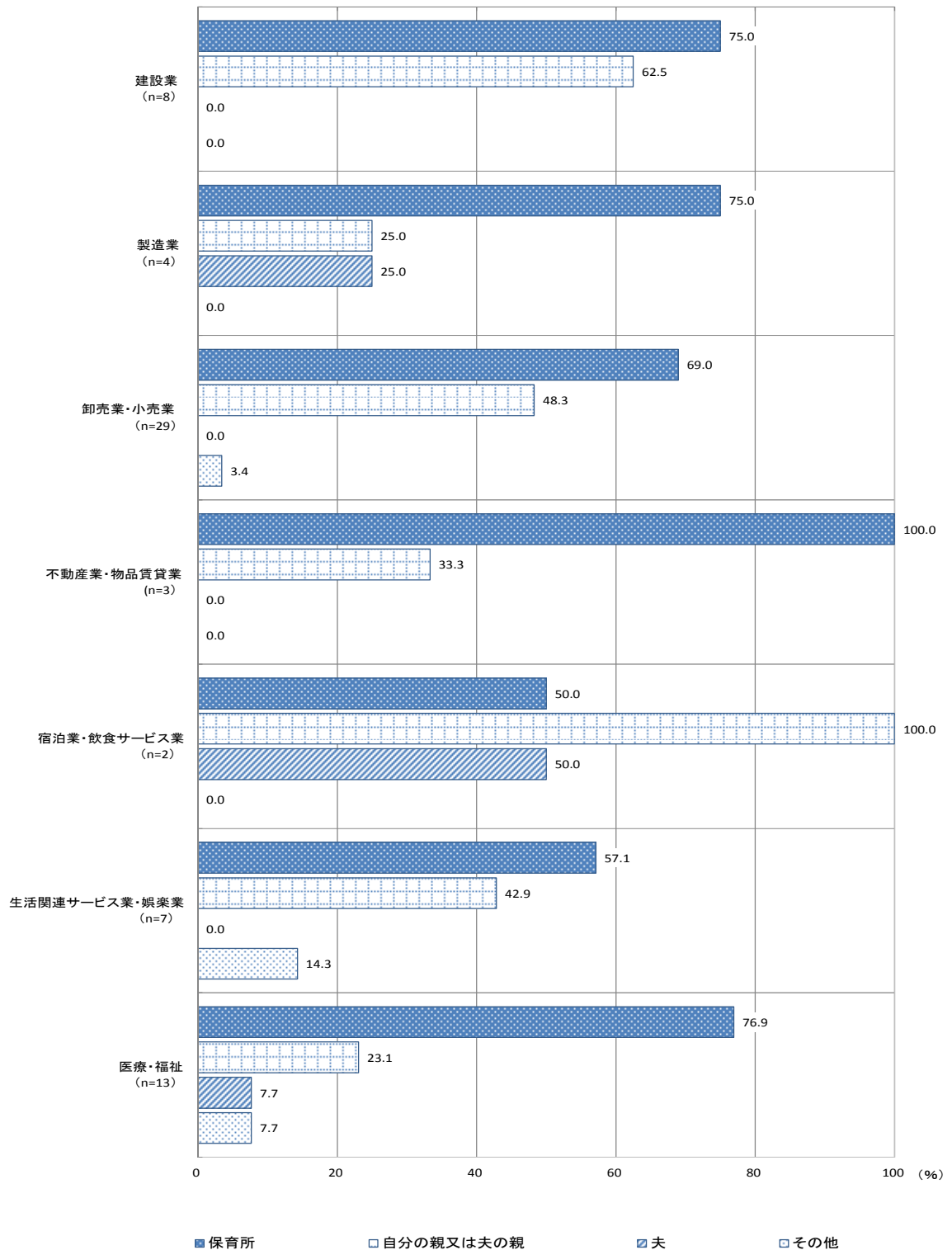


【その他の内容の具体例】 全2件

- 職場にある託児所
- 妹

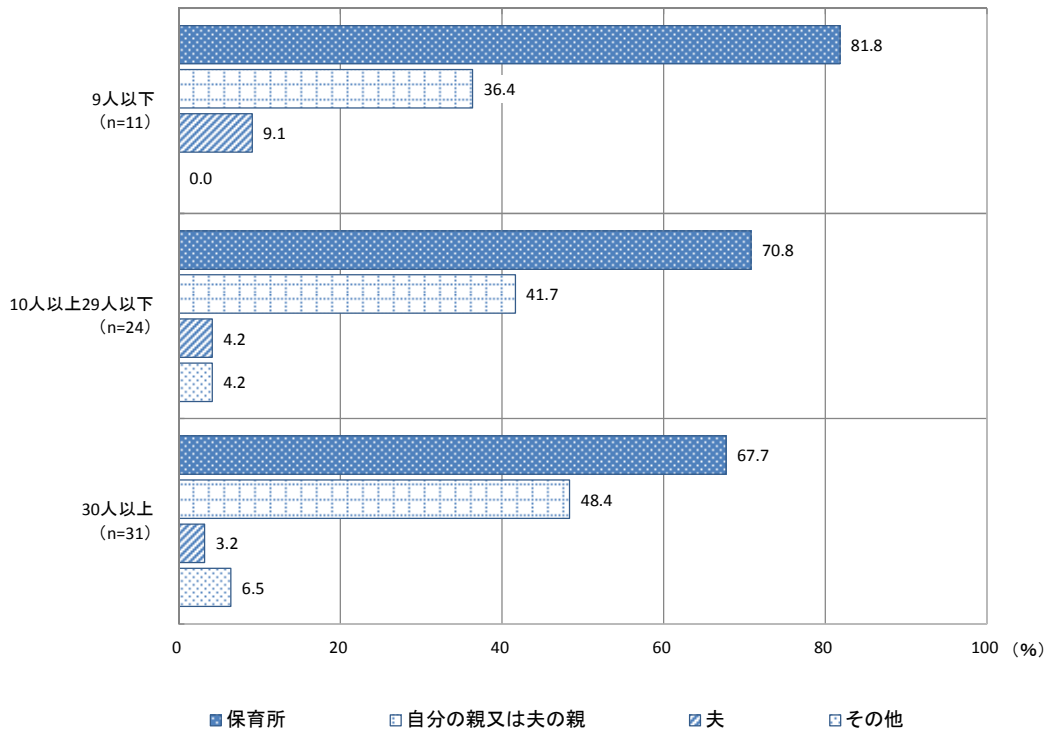
【業種別】

復職後、勤務中に子どもの面倒をみていた人に関して業種別にみると、数は少ないが<宿泊業・飲食サービス業>以外のすべての業種で「保育所」との回答が最も多く6割弱を超え、<宿泊業・飲食サービス業>では「自分の親又は夫の親」との回答が最多であった。



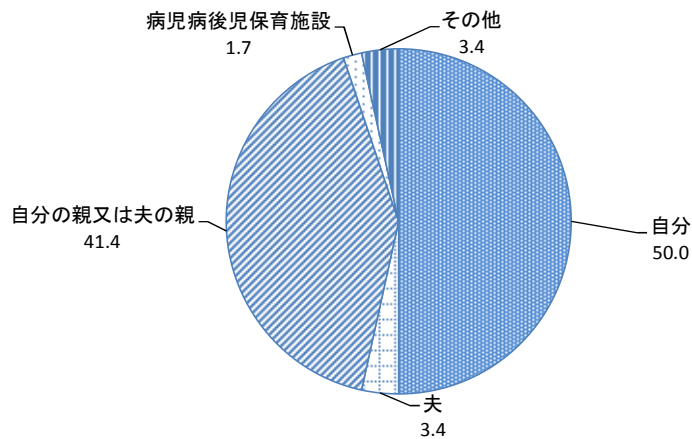
【正規社員数別】

復職後、勤務中に子どもの面倒をみていた人に関して正規社員数別にみると、全ての規模区分で「保育所」が最も多く、＜9人以下＞の企業では8割を超えた。



問 16 子どもの急な発熱や病気になった時、主に誰が子どもの面倒を見ましたか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

子どもの急な発熱や病気の際に主に面倒を見ていた人に関しては、「自分」との回答が50%（29件）と最も多く、「自分の親又は夫の親」が41.4%（24件）で続いた。



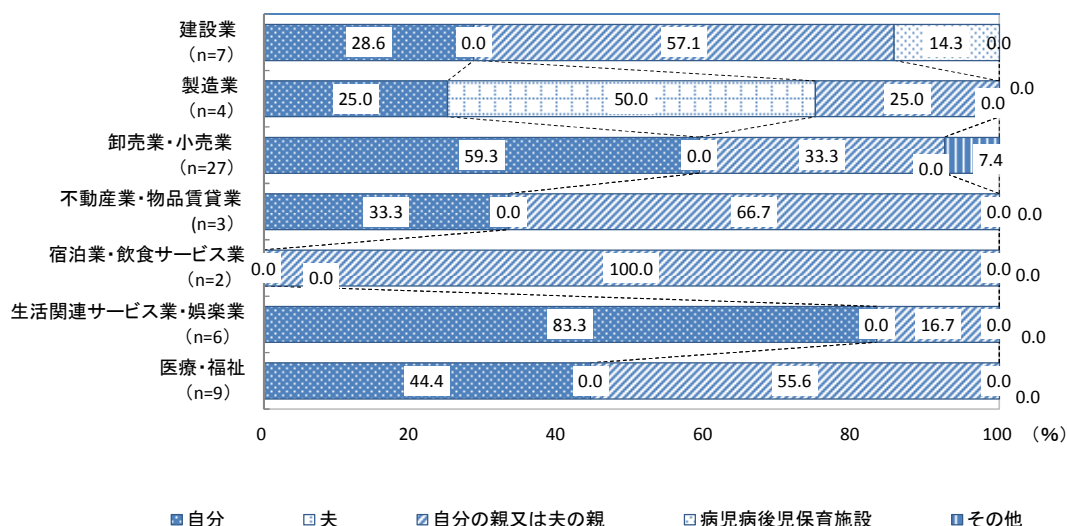
n=58

【その他の内容の具体例】 全2件

- 自分と夫で半々くらい
- 妹

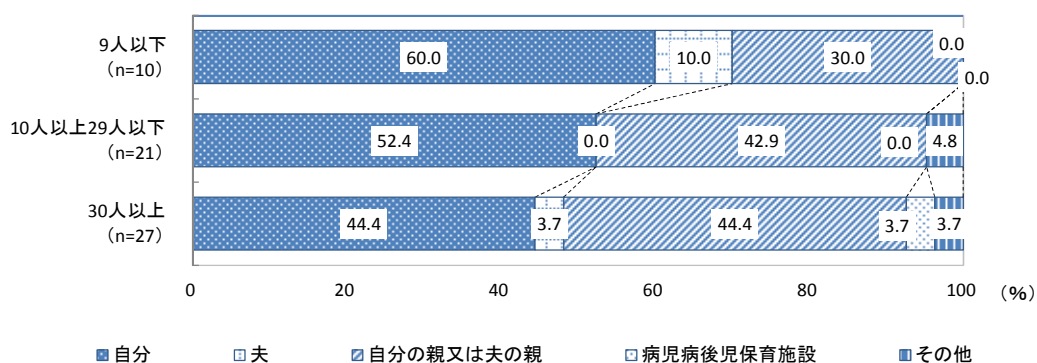
【業種別】

子どもの急な発熱や病気の際に主に面倒を見ていた人に関して業種別にみると、数は少ないが＜建設業＞＜不動産業・物品賃貸業＞＜宿泊業・飲食サービス業＞＜医療・福祉＞では「自分の親又は夫の親」との回答が最も多く、＜卸売業・小売業＞＜生活関連サービス業・娯楽業＞では「自分」、＜製造業＞では「夫」との答えが最多であった。



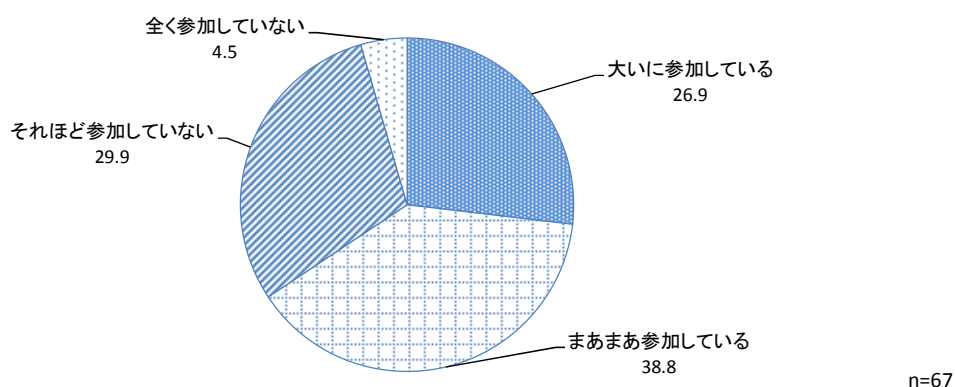
【正規社員数別】

子どもの急な発熱や病気の際に主に面倒を見ていた人に関して正規社員数別にみると、全ての規模で「自分」との回答が最も多く 5 割を超え、＜30 人以上＞の企業では「自分の夫又は夫の親」との回答が同率で並び最多であった。



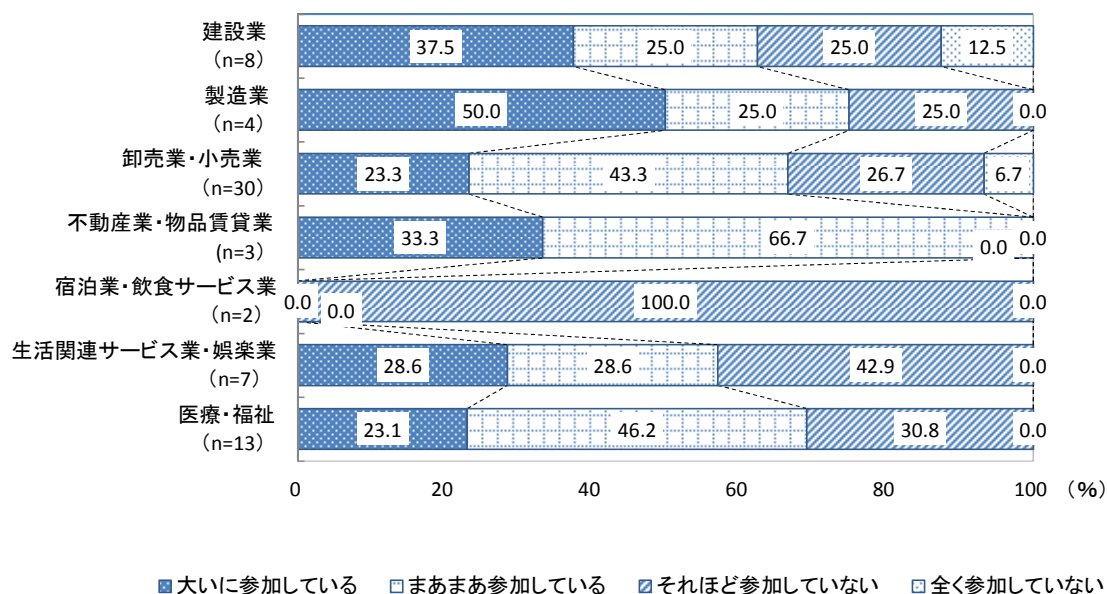
問 17 あなたの夫(シングルマザーの方は家族と読み替えてください。)は家事、育児に参加していますか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

夫または家族の家事、育児への参加に関して、最も多い回答は「まあまあ参加している」が38.8% (26件) となり、「大いに参加している」26.9% (18件) と合わせ『育児に参加している』は全体の6割を超えた。



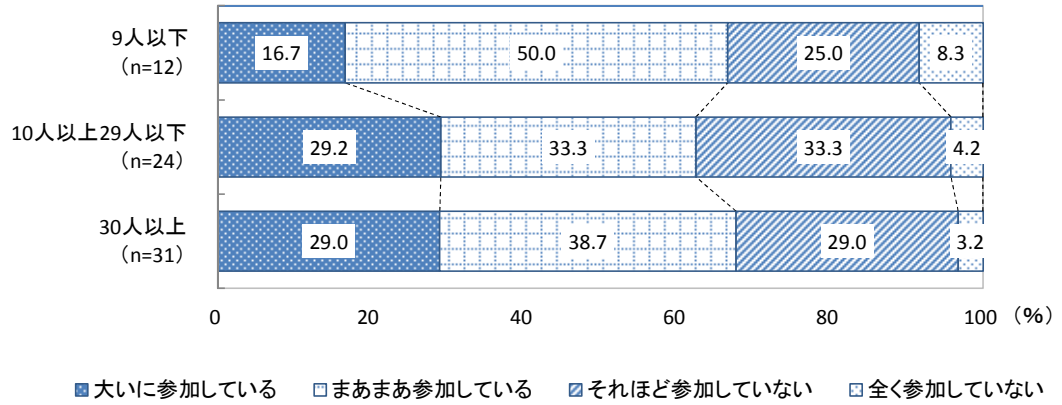
【業種別】

夫または家族の家事、育児への参加に関して業種別にみると、「大いに参加している」と「まあまあ参加している」を『育児に参加している』とすると、＜宿泊業・飲食サービス業＞を除く6業種が5割を超えたのに対し、件数は少ないが＜宿泊業・飲食サービス業＞のみ「それほど参加していない」が最も多かった。



【正規社員数別】

夫または家族の家事、育児への参加に関して正規社員数別にみると、全ての規模で「大いに参加している」と「まあまあ参加している」を合わせた『育児に参加している』との回答が6割超を占めた。

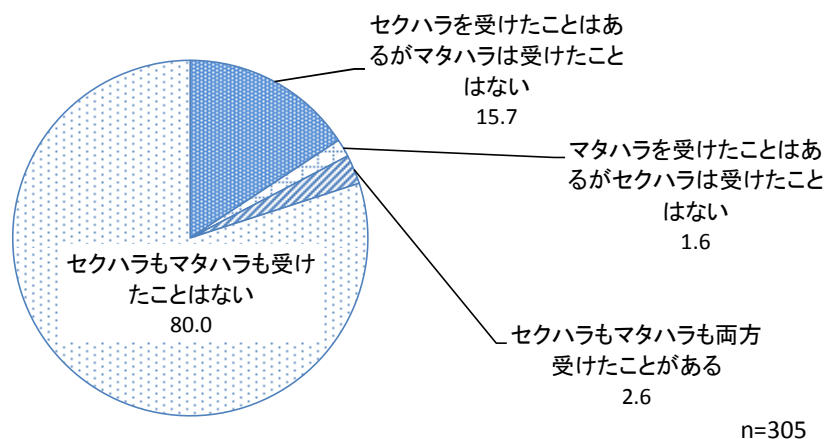


■

10 パワハラ・マタハラに関して

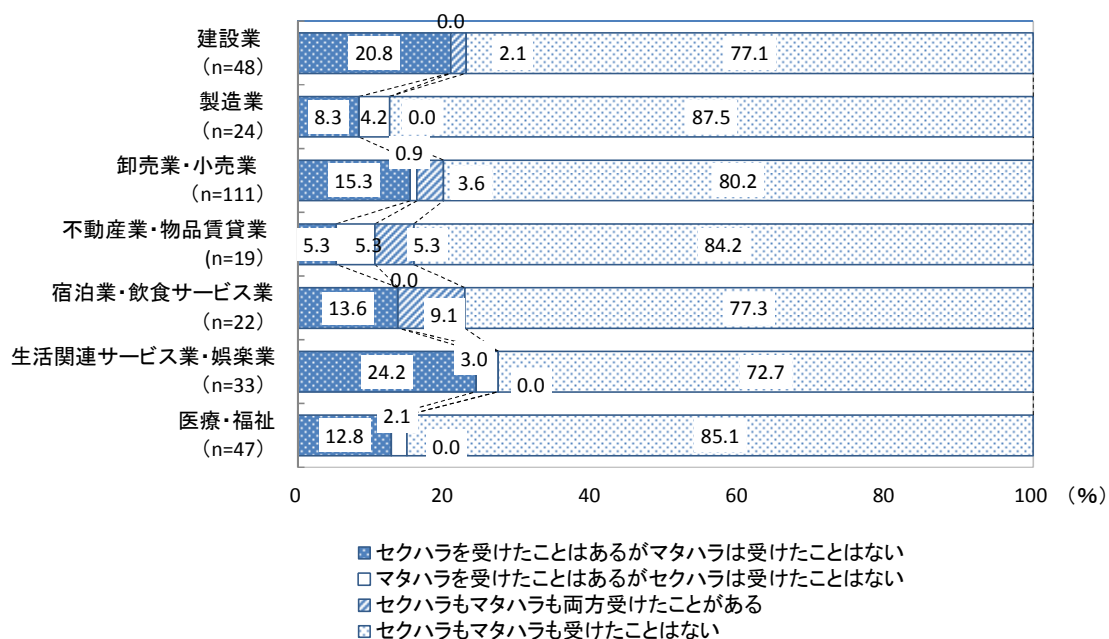
問 18 今までにセクハラやマタハラを受けたことがありますか。あてはまるもの1つに○を付けてください。

セクハラやマタハラを受けた経験に関しては、「セクハラもマタハラも受けたことはない」との回答が最も多く 80% (244 件) となった。



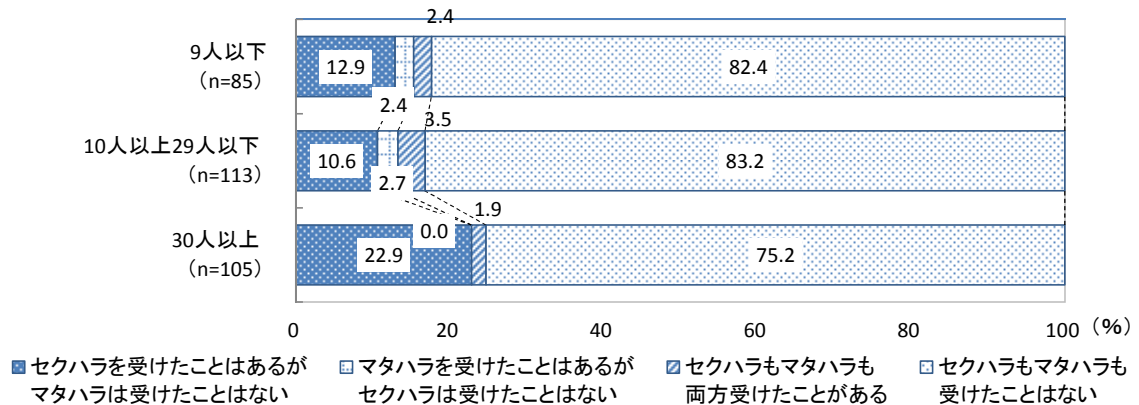
【業種別】

セクハラやマタハラを受けた経験に関して業種別にみると、全ての業種で「セクハラもマタハラも受けたことはない」との回答が最も多く全体の 7 割以上を占めたが、<建設業><生活関連サービス業・娯楽業>では「セクハラを受けたことはあるがマタハラは受けたことはない」との回答が 2 割を超えている。



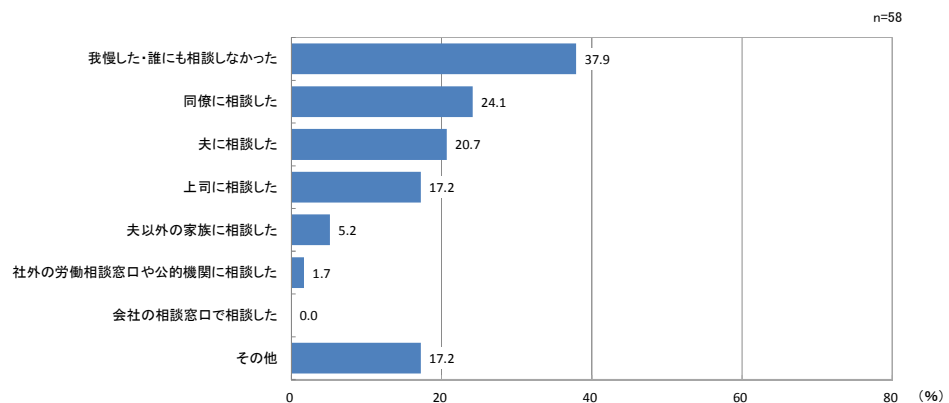
【正規社員数別】

セクハラやマタハラを受けた経験に関して正規社員数別にみると、全ての企業で「セクハラもマタハラも受けたことはない」との回答が最も多く全体の7割以上を占めた。一方、「セクハラを受けたことはあるがマタハラは受けたことはない」も1割以上の回答があり、<30人以上>の企業では2割を超えた。



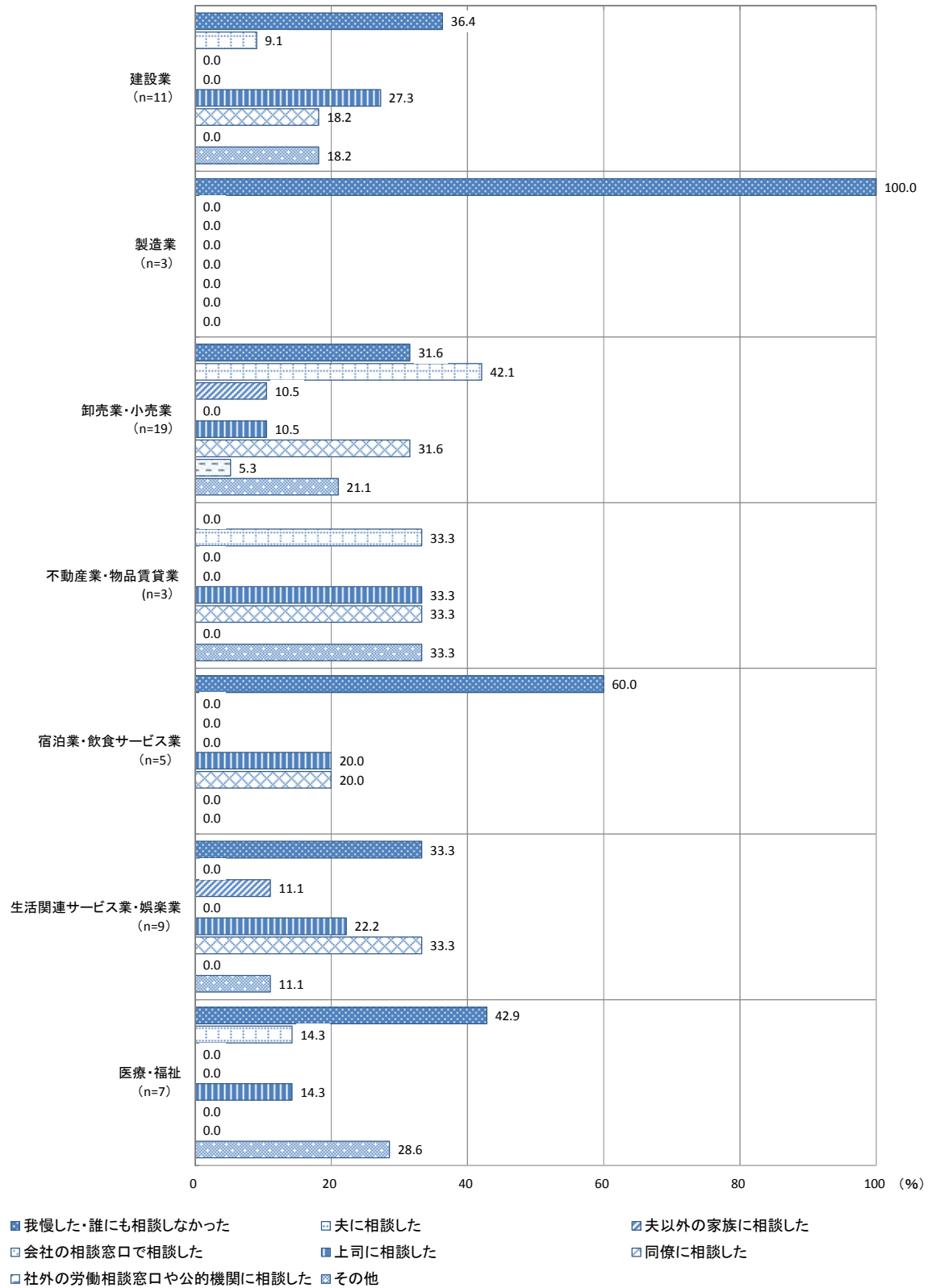
問 18-1 セクハラ(マタハラ)を受けた際、どのように対応しましたか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

セクハラやマタハラを受けた際の対応に関しては、「我慢した・誰にも相談しなかった」との回答が37.9% (22件) と最も多かった。また、「夫に相談した」「夫以外の家族に相談した」「会社の相談窓口で相談した」「上司に相談した」「同僚に相談した」「社外の労働相談窓口や公的機関に相談した」を『相談した』とすると、7割弱となる。



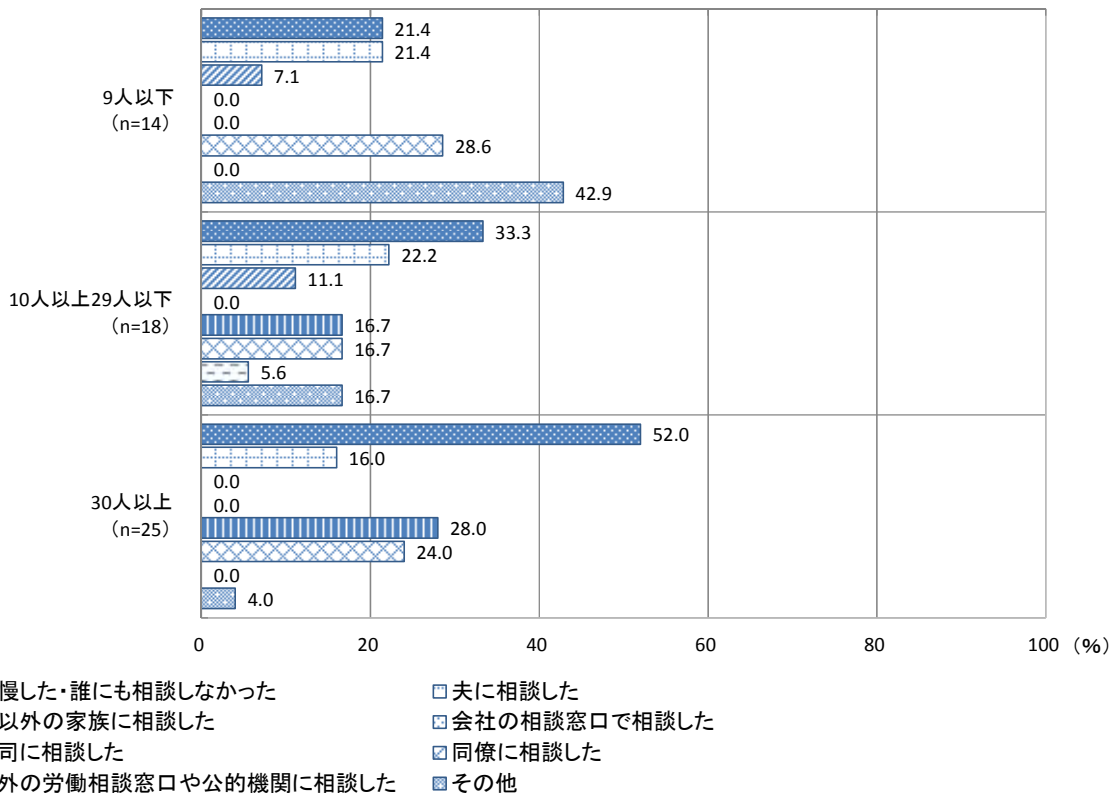
【業種別】

セクハラやマタハラを受けた際の対応に関して業種別にみると、回答数は少ないが<建設業><製造業><宿泊業・飲食サービス業><医療・福祉>では「我慢した・誰にも相談しなかった」との回答が最も多かった。



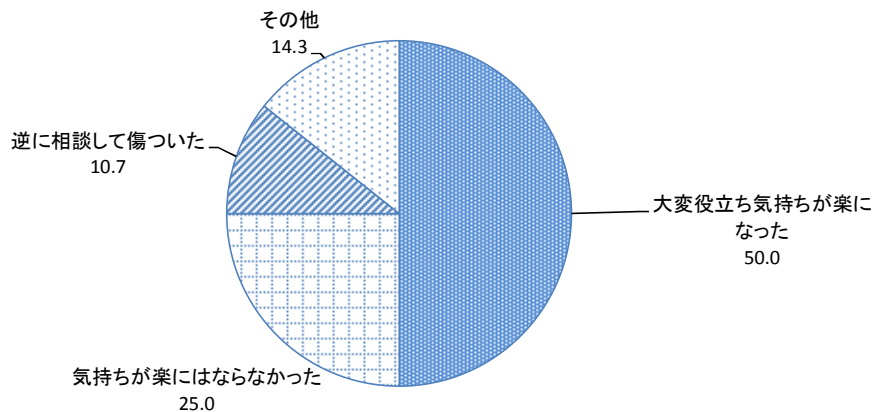
【正規社員数別】

セクハラやマタハラを受けた際の対応に関して正規社員数別にみると、正規社員数が多くなるにつれて「我慢した・誰にも相談しなかった」が多くなる傾向がある。



問 18-2 相談した結果はどうでしたか。あてはまるもの 1 つに○を付けてください。

セクハラやマタハラを相談した結果に関しては、「大変役立ち気持ちが楽になった」との回答が全体の 5 割を占めた。



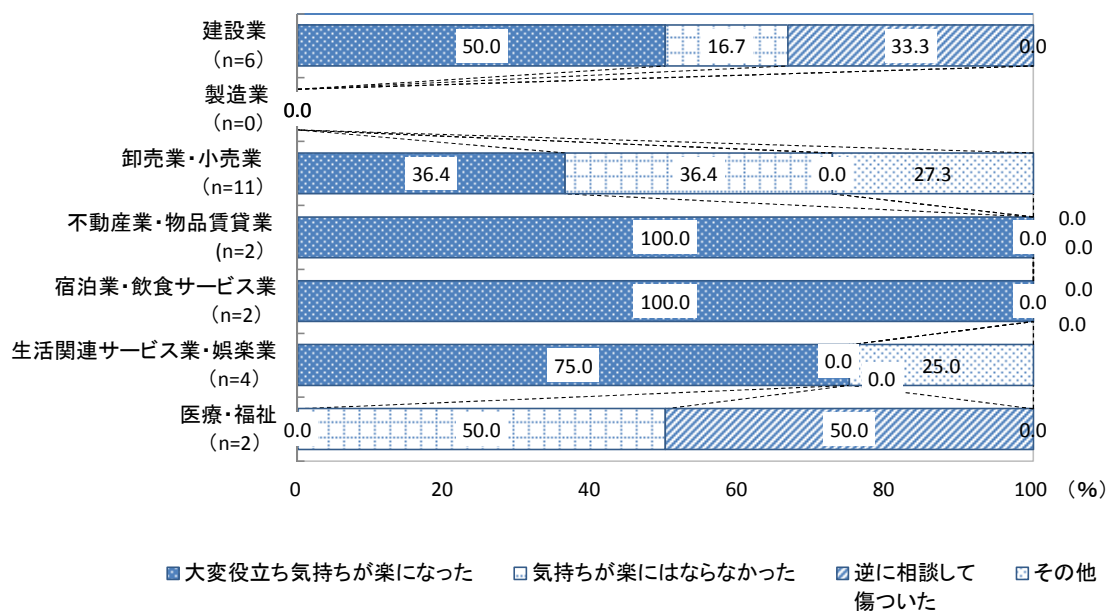
n=28

【その他の内容の具体例】 全4件

- 覚えてない
- 相談に行ったあと、別の指導員が調査にきたが、かえって変な空気となり居心地が最悪だった。相談直後は言えて少しスッキリはしたが
- 前の職場で女性から（同じ役職）産休をとれたり、年休もたくさんとれたりとねたまれた。相談をして助けてもらえたが、とても苦しかった
- 前の職場で産休明けに事務職から現場職へ配置換えをされ、職場を辞めた

【業種別】

セクハラやマタハラを相談した結果に関して業種別にみると、回答件数は少ないが<建設業><不動産業・物品賃貸業><宿泊業・飲食サービス業><生活関連サービス業・娯楽業>で「大変役立ち気持ちが楽になった」が5割を超え最多となり、<卸売業・小売業>では「大変役立ち気持ちが楽になった」と「気持ちが楽にはならなかった」が同率で並んだ。<医療・福祉>に関しては「気持ちが楽にはならなかった」と「逆に相談して傷ついた」が半数ずつとなった。



【正規社員数別】

セクハラやマタハラを相談した結果に関して正規社員数別にみると、<9人以下><30人以上>では「大変役立ち気持ちが楽になった」との回答が最も多く6割以上となった。

